

和仏法律学校講義録

著者	岩田 一郎, 松岡 義正, 島田 鐵吉
出版者	和佛法律學校
巻	1
号	号外の15
ページ	1-53
発行年	1901-09-05
URL	http://hdl.handle.net/10114/4736

和佛法律學校

講義錄

學 壹 部

號外之拾五

民事訴訟法第一編(自二七至二六二) 法學士 岩田 一郎

民事訴訟法至自八六編(自七〇九至七二四) 法學士 松岡 義正

戶 籍 法(自二六五至三二二) 法學士 島田 鐵吉

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

090
1900
1-2-15

官又ハ隊長ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノトス豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル下士以下ノ軍人即チ現役徵兵ハ軍規ニ服従スルモノナルヲ以テ一般送達ノ法則ニ從フ能ハス其長官若クハ隊長ニ送達スヘキモノトセリ其所屬長官若クハ隊長ハ法律上特別ノ規定存セスト雖モ職務上其書類ヲ送達ヲ受クヘキ本人ニ交付スルノ義務アルモノナリ而シテ其書類カ本人ニ交付セラレタルト否トヲ問ハス訴訟法上ニ於テハ其長官又ハ隊長ニ對スル書類ノ送達ヲ以テ本人ニ對シテ送達ヲ爲シタル效力ヲ生スルモノトス(第一三九條)

(五) 四人ニ對スル送達ハ監獄ノ首長ニ對シテ之ヲ爲ス爰ニ四人ト云フハ未決囚及ヒ既決囚ヲ總括スルモノニシテ本人ニ對シテ爲スコトヲ許ササルハ監獄ニ在リテハ獄則ニ從フヘキヲ以テナリ監獄ノ首長ハ現役軍人ニ對スル所屬長官又ハ隊長ト同シタ書類ヲ本人ニ對シテ交付スルノ義務アリ而シテ本人カ書類ノ交付ヲ受ケタルト否トニ關セズ訴訟法ニ於テ監獄首長ニ送達シタル時ヲ以テ本人ニ對シテ送達ヲ爲シタルノ效力ヲ生スルモノトス(第一四〇條)

(六) 財産權上ノ訴訟ニ付テハ總代理人ニ書類ヲ送達スルトキハ本人ニ對シテ

送達シタルト同一ノ效力ヲ生シ又商業上ヨリ生シタル訴訟ニ付テハ代務人即チ支配人ニ送達シタルトキハ亦本人ニ對シテ送達ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ生ス是レ便宜上ノ規定ニ外ナラス(第一四一條)
(七) 訴訟代理人ヲ任設シテ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テハ其代理ノ範圍ニ屬スル事項ニ付テハ其代理人ニ對シテ送達ヲ爲スヘキモノトス第一四二條第一項若シ代理人ニ依リテ訴訟ヲ爲ス場合ニハ訴訟行爲ハ代理人ノ實行スル所ナルヲ以テ本人ニ對シテ送達スルヨリ寧ロ代理人ニ對シテ爲スヲ適當ト爲スヲ以テナリ然レトモ本人ニ對シテ送達ヲ爲スモ其送達ハ無効ニ非ストス(第一四二條第二項)
第四節 送達ノ方式
送達ニハ送達吏ニ依ル送達郵便ニ付スル送達囑託送達公示送達ノ四種アリ隨テ其送達ノ方式ニ付テモ亦其種類ニ依リ之ヲ異ニス左ニ之ヲ説明スヘシ
(甲) 送達吏ニ依ル送達
送達吏ハ前ニ述ヘタルカ如ク執達吏及ヒ郵便配達吏是ナリ隨テ送達吏ニ依ル

送達ハ執達吏ニ依ル送達郵便ニ依ル送達トニ區別スルヲ得ヘシ執達吏ニ依ル送達ハ執達吏カ裁判所書記ノ委任ニ依リテ送達ヲ實施スヘキモノナリ然レトモ執達吏職務施行ノ區域ハ其執達吏ノ屬スル裁判所ノ管轄區域ト同一ナルヲ以テ其區域外ニ涉リテ送達ヲ爲ス能ハス(執達吏規則參照)隨テ裁判所書記カ送達ノ委任ヲ爲スハ其裁判所ノ管轄區域内ニ於テ送達ヲ爲スヘキトキハ直接ニ其裁判所ニ屬スル執達吏ニ對シテ委任ヲ爲スコトヲ得ヘク若シ其裁判所ノ管轄區域外ニ於テ送達ヲ爲スヘキ場合ニハ直接ニ執達吏ニ對シテ委任ヲ爲スコトヲ得ス送達ヲ施行スヘキ地ヲ管轄スル區裁判所ノ書記ニ送達ノ施行ヲ執達吏ニ委任スヘキコトヲ囑託シテ之ヲ爲スヘキモノトス(第一三六條第二項)郵便ニ依ル送達ハ裁判所書記カ送達スヘキ書類ヲ郵便局ニ送付シ郵便配達吏ヲシテ送達ヲ實施セシムルノ方法ニシテ裁判所ノ管轄區域外ニ於テスル送達ハ裁判所書記ノ意見ニ依リテ此方法ヲ用フルコトヲ得ヘシ
右ノ送達吏カ送達ヲ實施スル場合ニ於テハ送達ノ場所及ヒ日時ニ關シ次ノ法則ニ從ハサルヘカラス

(一) 送達ノ場所

(イ) 送達ハ送達ヲ受クル本人ニ對シ其住所又ハ事務所ニ於テ爲スヲ原則トス然レトモ送達ヲ受クヘキ人ニ出會ヒタル地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ但シ此場合ハ送達ヲ受クヘキ人カ其地ニ住居若クハ事務所ヲ有セサルカ又ハ住居若クハ事務所ヲ有スルモ送達書類ノ受取ヲ拒マナリシトキニ限り效力ヲ有スルモノトス(第一四四條第一項)

(ロ) 公私ノ法人又ハ其資格ニ於テ訴ヘ若クハ訴ヘラルルコトヲ得ル社團財團ニ對スル送達ニシテ其法定代理人若クハ首長又ハ事務擔當者ニ爲ス送達ハ特別ノ事務所アルトキハ事務所ニ於テ爲スヘキモノトス其事務所ノ外ニ於テハ法定代理人等カ送達書類ノ受取ヲ拒マナリシトキニ限り有效ナル送達ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(第一四四條第二項)

(ハ) 送達ヲ受クヘキ人ニ住居ニ於テ出會ハサルトキハ其住居ニ於テスル送達ハ成長シタル同居ノ親族又ハ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ(第一四五條第一項)此規定ニ從ヒ送達ヲ施行スルコトヲ得サルトキハ其送達ハ交付スヘキ書類ヲ

其地ノ市町村長ニ預置キ送達告知書ヲ作り之ヲ住居ノ戸ニ貼附シ且ツ近隣ニ住居スル者二人ニ其旨ヲ口頭ヲ以テ通知シテ之ヲ爲スコトヲ得(第一四五條第二項)

(ニ) 住居ノ外ニ事務所ヲ有スル人ニ對スル送達ハ其事務所ニ於テ送達ヲ受クヘキ人ニ出會ハサルトキハ其事務所ニ在ル營業使用人ニ之ヲ爲スコトヲ得又辯護士ニ對スル送達ノ場合ニハ筆生ニモ之ヲ爲スコトヲ得(第一四六條)

公私ノ法人又ハ資格ニ於テ訴ヘ若クハ訴ヘラルルコトヲ得ル社團財團ニ對スル送達ニシテ其法定代理人又ハ其首長若クハ事務擔當者ニ事務所ニ於テ出會ハス又ハ此等ノ者送達書類ノ受取ニ付キ差支アルトキハ送達ハ其事務所ニ在

ル

他ノ役員又ハ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得(第一四七條)右二箇ノ規定ニ從ヒ送達ヲ施行スルヲ得サルトキハ送達ハ其交付スヘキ書類ヲ其地ノ市町村長ニ預置キ送達告知書ヲ作り之ヲ住居若クハ事務所ノ戸ニ貼附シ且ツ近隣ニ住居スル者二人ニ口頭ヲ以テ其旨ヲ通知シテ爲スコトヲ得ヘシ但シ第一ノ場合ニ於テハ住居ニ於ケル送達ヲ施行スルコトヲ得サルトキニ

限ル第一四八條第一四五條第二項

(ホ) 豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル下士以下ノ軍人軍屬ニ對スル送達囚人ニ對スル送達ハ其所屬長官隊長又監獄首長ニ於テ職務上送達ヲ受クヘキモノナレハ送達ノ場所ハ何レモ其官署ナラサルヘカラス若シ隊長又ハ首長カ其官署ニ在ラサルトキハ其職務ヲ代理スル者ニ對シ送達ヲ爲スヲ以テ足ル

(ニ) 法律ノ規定ニ從ヒ本人若クハ本人以外ノ者カ送達ヲ受クヘキ義務アルニ拘ラス法律上ノ理由ナクシテ送達ノ受取ヲ拒ムトキハ送達吏ハ交付スヘキ書類ヲ送達ノ場所ニ差置クヘキモノトス此場合ニ於テハ差置ヲ以テ完全ニ送達ノ效力ヲ生ス(第一四九條)

(二) 送達ノ日時

送達吏ノ爲スヘキ送達ハ日曜日、一般ノ祝祭日及ヒ夜間ニハ裁判官ノ特別ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス夜間トハ日出ヨリ日没マテノ時間ヲ謂フ郵便ニ付スル送達ハ送達吏ノ施行スルモノニ非サレハ此制限ニ從フヲ要セサルヤ固ヨリナリ(第一五〇條第一項第二項郵便ニ依ル送達ハ夜間ニ限リ許

可ヲ必要トシ日曜日、祝祭日ハ之ヲ要セス

右ノ許可ハ受訴裁判所ノ裁判長又ハ送達吏ノ爲スヘキ地ヲ管轄スル區裁判所ノ判事之ヲ與ヘ又ハ受命判事若クハ受託判事ノ完結スヘキ事件ニ在リテハ其判事ニ於テ之ヲ與フルモノトス(第一五〇條第三項)而シテ許可ノ命令ヲ認證シタル原本ヲ以テ送達ノ際送達ヲ受クヘキ人ニ交付セサルヘカラス(第一五〇條第四項)

日曜日、一般ノ祝祭日又ハ夜間ニ於テ送達ヲ爲スニ當リ假令前段ニ述ヘタル許可ノ命令ナシト雖モ送達受取人ニ於テ送達書類ノ受取ヲ拒マナリシトキハ送達ノ效力ヲ生シ其他ノ場合ニ在リテハ送達ノ效力ヲ生セス(第一五〇條第五項)

(乙) 郵便ニ付スル送達

受訴裁判所ノ所在地ニ住居並ニ事務所ヲ有セサル原告若クハ被告ハ其所在地ニ送達ノ爲メノ假住所ヲ選定シ之ヲ受訴裁判所ニ届出ツヘク而シテ其届出ハ運クトモ最近ノ口頭辯論ニ於テ之ヲ爲シ又口頭辯論前ニ書面ヲ差出スコトアルトキハ其書面ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノトス右ノ届出ヲ怠リタル原告若クハ

被告ニ對シ書類送達ノ必要ヲ生シタルトキハ裁判所書記ハ送達スヘキ書類ヲ原告若クハ被告ノ名宛ニテ郵便ニ付シテ送達ヲ爲スコトヲ得而シテ此場合ニ於テハ其書類ハ原告若クハ被告ニ到達スルト否トニ關セズ又何時ニ到達スルトヲ問ハズ郵便ニ付シタル時ヲ以テ送達ヲ爲シタルモノト看做ス(第一四三條)故ニ其書類カ何レノ場所何レノ日時ニ於テ宛名人ニ到達スルモ送達ノ效力ニ關係ナキモノトス

(丙) 囑託送達

囑託送達ハ外國ニ在ル者若クハ出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服スル軍艦ノ乗組員ニ屬スル者ニ對シテ送達ヲ爲ス場合ニシテ次ノ三箇ノ法則アリトス

(イ) 外國ニ在リテ治外法權ヲ有スル帝國官吏其家族及ヒ從者ニ對シ外國ニ於テ施行スヘキ送達ハ外務大臣ニ囑託シテ之ヲ爲ス(第一五二條)

(ロ) 右(イ)號ノ外外國ニ於テ施行スヘキ送達ハ外國ノ管轄官廳又ハ外國ニ駐在スル帝國ノ公使又ハ領事ニ囑託シテ之ヲ爲ス(第一五三條)外國管轄官廳ニ囑託スル場合ハ國際條約上其助ノ存スルトキニ限ル

(ハ) 出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乗組員ニ屬スル人ニ對スル送達ハ上班司令官廳ニ囑託シテ之ヲ爲スコトヲ得(第一五四條)

右ノ場合ニ於テ必要ナル囑託書ハ受訴裁判所ノ裁判長之ヲ發スヘク(第一五五條)而シテ囑託ヲ受ケタル者ハ相當ノ手續ヲ爲シ送達書類ヲ本人ニ交付スヘキモノトス

(丁) 公示送達

公示送達トハ送達スヘキ書類ヲ一定ノ場所ニ貼附シ或ハ其書類ノ抄本ヲ公告シテ爲ス送達ヲ謂フモノニシテ原告若クハ被告ノ所在地知レサルトキ又ハ外國ニ於テ爲スヘキ送達ニ付キ其規定ニ從フコト能ハス若クハ其規定ニ從フモ其效ナキコトヲ豫知スルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(第一五六條)

此送達ハ原告若クハ被告ニ對シテノミ爲スコトヲ得ル方法ニシテ原告若クハ被告ヨリ裁判所ニ其中立ヲ爲シ裁判所之ヲ許シタルニ依リ施行スルヲ得ヘク裁判所カ許可ノ命令ヲ與ヘタルトキハ裁判所書記之ヲ取扱フモノトス(第一五七條第一項)而シテ其送達施行方法ハ裁判所書記カ其交付スヘキ書類ヲ裁判所

ノ揭示板ニ貼附シテ之ヲ爲ス判決決定ニ在リテハ其裁判ノ部分ノミヲ貼附スルヲ以テ足り又右貼附ノ外裁判所カ必要ト認メタルトキハ送達スヘキ書類ノ抄本ヲ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ一同又ハ數回掲載スヘキコトヲ命スルコトヲ得ヘシ此場合ニ於ケル抄本ニハ裁判所當事者訴訟物及ヒ送達スヘキ書類ノ要旨ヲ掲クルコトヲ要ス(第一五七條第二項第三項)

公示送達ハ書類ノ貼附ヨリ十四日ヲ經過シタル日ヲ以テ送達ヲ爲シタルモノト看做ス然レトモ裁判所ハ公示送達ヲ命スルニ際シ此ヨリ長キ期間ヲ必要ト認メタルトキハ相當ナル期間ヲ定ムルコトヲ得ヘシ此場合ニハ期間ノ經過シタル日ヲ以テ送達ヲ爲シタルモノト看做ス(第一五八條第一項)

同一事件ニ關シ同一ノ原告若クハ被告ニ對シ再度以上公示送達ヲ爲スヘキトキハ其後ノ公示送達ハ送達スヘキ書類ノ貼附ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス(第一五八條第二項)

第五 送達證書

送達ニ付テハ之ヲ證スヘキ證書ヲ作ラサルヘカラス其證書ハ送達ノ方式ニ從

ヒ差異アリトス

(一) 送達吏ニ依ル送達ハ送達吏其證書ヲ作成スヘシ而シテ其證書ニハ左ノ事項ヲ記載スルヲ要ス(第一五一條第一項第二項)

送達ノ場所

送達ノ年月日時

送達ノ方法即チ本人ニ送達シタルヤ或ハ雇人ニ送達シタルヤ或ハ市町

村長ニ預置ノ手續ヲ爲シ若クハ受取人ノ面前ニ差置キタルヤ等送達施行

ノ手續ヲ記載スヘシ

(ニ) 受取人ノ受取證但シ受取人受取證ヲ出スコトヲ拒ミタルトキ又ハ受取

證ヲ作ルコト能ハサル旨ヲ述フルトキハ其旨ヲ記載スヘシ

(ホ) 送達吏ノ署名捺印

郵便ニ付スル送達ニ付テハ送達スヘキ書類ヲ郵便ニ付シタル吏員ノ報告

書ヲ以テ送達證ト爲ス(第一五一條第三項)

(三) 囑託ニ依ル送達ニ付テハ囑託ヲ受ケタル官廳又ハ官吏ノ送達施行濟ノ證

書ヲ以テ送達ノ證ト爲ス(第一五五條第二項)
(四) 公示送達ニ付ラハ特ニ送達證書ヲ作ルヘキ規定ナキモ公示送達ハ裁判所書記之ヲ取扱フモノナレハ裁判所書記ハ送達スヘキ書類ヲ適法ニ貼附シタル事實並ニ貼附ノ日時ヲ明カニスル書面ヲ作成シ之ヲ訴訟記録ニ添附スヘシ然ラツレハ後日ニ至リ公示送達ノ有無ヲ知ルヲ得ルノ途ナキヲ以テナリ而シテ其書面ニ依リテ送達ノ施行ヲ證スヘキモノトス

第三節 期日及ヒ期間

訴訟ヲ秩序的ニ進行シ且ツ訴訟ノ完結ヲ速ナラシムルニハ訴訟行為實行ノ時期ニ付テノ定ナカルヘカラス期日、期間ノ規定ハ此目的ノ爲メニ設ケラレタルモノナリ

期日トハ訴訟當事者カ裁判所ニ出頭スヘキ時間ヲ謂フ訴訟當事者カ自ラ口頭辯論ヲ爲スト裁判所ニ於テ生スル事項ヲ知了スルカ爲メナルトヲ問ハス裁判所ニ出頭スヘキ時間ヲ稱シテ期日ト謂フナリ即チ口頭辯論、判決ノ言渡、證據調

準備手續ノ施行、不動産競賣競落等ノ期日はナリ

期間トハ訴訟當事者カ裁判所ニ出頭セスシテ訴訟行為ヲ爲シ得ヘキ時間ヲ謂フ故ニ裁判官カ判決原本ヲ作成スル期間(第二三七條第二項)抗告裁判所ニ抗告ヲ送付スル期間(第四五九條)ノ如キ裁判所内部ノ事務上ノ規定ニシテ所謂期間ト稱スヘキモノニ非ス此ニ期間ト稱スルハ訴訟當事者カ訴訟行為ヲ爲スヘキ時間ヲ意味スルモノナリ

第一款 期 日

第一 期日ノ指定
期日ハ受訴裁判所ノ裁判長之ヲ指定スヘキモノトス然レトモ受命判事受託判事モ法律ニ特定セル場合ニ限リ期日ノ指定ヲ爲スコトヲ得(タ)例ヘハ第二六九條第二七八條等)又執行裁判所モ之ヲ定ムルコトヲ得(シ)例ヘハ第六五七條、第六九三條等)

期日ハ日及ヒ時ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノトス而シテ已ムヲ得サル場合ノ外ハ

日曜日及ヒ一般ノ祝祭日ニ之ヲ定ムルコトヲ得ス(第一百五九條第一六〇條)

第二期日ノ呼出

期日ヲ指定セラレタルトキハ裁判所書記ハ裁判長又ハ受命判事若クハ受託判事ノ命ニ從ヒ呼出狀ヲ作成シ其正本ヲ當事者若クハ訴訟關係人ニ送達ノ手續ヲ爲シ以テ當事者又ハ訴訟關係人ヲ呼出スヘキモノトス但シ在廷シタル者ニ期日ヲ定メ出頭ヲ爲シタルトキハ呼出狀ノ送達ヲ要セス(第一六一條)

第三期日開始ノ場所

期日ハ裁判所内ニ於テ之ヲ開クヲ通例トス然レトモ裁判所ニ出頭スルニ差支アル人ニ對スル審問其他檢證ノ如キ裁判所内ニ於テ爲スコトヲ得サル行爲ヲ要スル場合ニ於テハ裁判所外ニ於テ期日ヲ開クコトヲ得第一六二條

第四期日ノ開始

期日ハ事件ノ呼上ニ依リテ開始ス呼上ナキ間ハ假令期日トシテ定メラレタル時間到來スルモ期日ノ開始ト云フコトヲ得ス期日開始ノ際原告若クハ被告カ出頭セサルモ直チニ懈怠ノ結果ヲ生セス期日ノ終ニ至ルマテ辯論ヲ爲ササル

トキニ限り期日ヲ懈怠シタルモノト看做サル(第一六三條)

第五期日ノ變更

期日ノ變更トハ期日開始以前ニ於テ之ヲ變更スルコトヲ謂フ而シテ期日ノ變更ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ第一六九條
申立ニ因ル期日ノ變更ハ當事者ノ合意ノ申出アルトキハ常ニ之ヲ許スヘク合意ナキ場合ニ於テハ顯著ナル理由アルトキニ限り之ヲ許スコトヲ得第一六九條

同一期日ノ再度ノ變更ハ合意ナキ場合ニ於テハ相手方ヲ審訊シタル後ニ限り之ヲ許スコトヲ得ヘク若シ相手方カ異議ヲ述フルトキハ顯著ナル差支ノ理由及ヒ其差支ヲ除去スルコトノ特別ナル困難ヲ生シタルコトヲ證明スルトキニ限り之ヲ許スコトヲ得訴訟代理人ノ差支ニ因ル期日ノ再度ノ變更ハ相手方ノ同意ナキトキハ如何ナル場合ト雖モ之ヲ許スコトヲ得ス(第一七一條第三項)
期日ノ變更ハ申立ニ因ルト職權ニ因ル場合トヲ問ハス常ニ裁判所ノ裁判ヲ以テ之ヲ爲ス而シテ當事者ヨリ期日ノ變更ヲ求ムルハ書面若クハ口頭ヲ以テ申

請ヲ爲シ其申請ノ理由ハ之ヲ説明セサルヘカラス申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得ヘク申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ述フルコトヲ得ス(第一七一條第一項第二項第四項)

期日ノ變更ニ附加シテ説明スヘキハ辯論ノ延期及ヒ續行是ナリ辯論ノ延期トハ既ニ期日ヲ開始シタル後辯論ノ開始以前ニ於テ辯論ヲ新期日ニ延期スルヲ謂ヒ辯論ノ續行トハ辯論ヲ開始シタルモ其辯論ヲ完結セスシテ新期日ニ辯論ヲ繼續スルヲ謂フ辯論ノ延期辯論ノ續行ハ當事者ノ申立若クハ裁判所ノ職權ヲ以テ爲スコトヲ得ヘク當事者合意ノ申立アルトキハ裁判所ニ於テ相當ト認メタルトキハ之ヲ許スヘキモノトス(第一六九條)

第一款 期間

第一期間ノ種別

第一期間ニ法定期間ト裁定期間ノ二種アリ法定期間トハ法律ヲ以テ定メタル期間ヲ謂ヒ裁定期間トハ裁判所若クハ裁判長ノ定ムル期間ヲ謂フ

(一) 法定期間ハ更ニ之ヲ分テテ不變期間ト然ラサルモノトノ二種トス
(イ) 不變期間トハ法律ニ於テ不變期間ト明定シタルモノヲ謂ヒ(第一六八條第三項)即チ故障期間、控訴期間、上告期間、即時抗告期間、再審ノ提起ノ期間、除權判決不服申立ノ期間、仲裁判決取消ノ期間等(第二五條第四〇〇條第四三七條第四六六條第四七四條第七七五條第八〇四條)是ナリ
(ロ) 不變期間ニ非サル法定期間ハ民事訴訟法第七十五條第九十四條第九十九條第二百四十二條第三百八十六條第三百九十一條第四百三十三條第四百四十九條第五百八條第六百九條第六百三十三條第六百五十六條第七百十五條第七百四十九條第七百七十一條第七百八十九條等ノ期間是ナリ
(二) 裁定期間ハ民事訴訟法第四十五條第七十條第八十五條第八十六條第九十條第九十二條第二百三十三條第二百四十四條第二百五十五條第二百七十五條第二百八十八條第三百四十條第三百四十一條第三百四十五條第三百五十二條第五百四十七條等是ナリ
第二 期間ノ始期及ヒ進行ノ停止

法定期間ハ法律ニ於テ其始期ヲ定ムルモ裁判所又ハ裁判長ノ定ムル期間ノ進行ハ期間ヲ定メタル書類ノ送達ヲ以テ始マル又其送達ヲ要セサル場合ニ於テハ期間ノ言渡ヲ以テ始マル但前期間指定ノ際此ヨリ遅キ始期ヲ定メタルトキハ其時ヨリ始マルモノトス(第一六四條)第二百五十五條第二百五十六條第二百五十七條第二百五十八條第二百五十九條第二百六十條第二百六十一條第二百六十二條第二百六十三條第二百六十四條第二百六十五條第二百六十六條第二百六十七條第二百六十八條第二百六十九條第二百七十條第二百七十一條第二百七十二條第二百七十三條第二百七十四條第二百七十五條第二百七十六條第二百七十七條第二百七十八條第二百七十九條第二百八十條第二百八十一條第二百八十二條第二百八十三條第二百八十四條第二百八十五條第二百八十六條第二百八十七條第二百八十八條第二百八十九條第二百九十條第二百九十一條第二百九十二條第二百九十三條第二百九十四條第二百九十五條第二百九十六條第二百九十七條第二百九十八條第二百九十九條第三百條第三百一條第三百二條第三百三條第三百四條第三百五條第三百六條第三百七條第三百八條第三百九條第四百條第四百一條第四百二條第四百三條第四百四條第四百五條第四百六條第四百七條第四百八條第四百九條第五百條第五百一條第五百二條第五百三條第五百四條第五百五條第五百六條第五百七條第五百八條第五百九條第六百條第六百一條第六百二條第六百三條第六百四條第六百五條第六百六條第六百七條第六百八條第六百九條第七百條第七百一條第七百二條第七百三條第七百四條第七百五條第七百六條第七百七條第七百八條第七百九條第八百條第八百一條第八百二條第八百三條第八百四條第八百五條第八百六條第八百七條第八百八條第八百九條第九百條第九百一條第九百二條第九百三條第九百四條第九百五條第九百六條第九百七條第九百八條第九百九條第一千條第一千一條第一千二條第一千三條第一千四條第一千五條第一千六條第一千七條第一千八條第一千九條

日ヲ算入セス一日ノ期間ハ二十四時トシ一箇月ノ期間ハ三十日トシ一箇年ノ期間ハ暦ニ從テ期間ノ終リ日曜日又ハ一般ノ祝祭日ニ當ルトキハ其日ヲ期間ニ算入セス(第一六五條第一六六條)第二百五十五條第二百五十六條第二百五十七條第二百五十八條第二百五十九條第二百六十條第二百六十一條第二百六十二條第二百六十三條第二百六十四條第二百六十五條第二百六十六條第二百六十七條第二百六十八條第二百六十九條第二百七十條第二百七十一條第二百七十二條第二百七十三條第二百七十四條第二百七十五條第二百七十六條第二百七十七條第二百七十八條第二百七十九條第二百八十條第二百八十一條第二百八十二條第二百八十三條第二百八十四條第二百八十五條第二百八十六條第二百八十七條第二百八十八條第二百八十九條第二百九十條第二百九十一條第二百九十二條第二百九十三條第二百九十四條第二百九十五條第二百九十六條第二百九十七條第二百九十八條第二百九十九條第三百條第三百一條第三百二條第三百三條第三百四條第三百五條第三百六條第三百七條第三百八條第三百九條第四百條第四百一條第四百二條第四百三條第四百四條第四百五條第四百六條第四百七條第四百八條第四百九條第五百條第五百一條第五百二條第五百三條第五百四條第五百五條第五百六條第五百七條第五百八條第五百九條第六百條第六百一條第六百二條第六百三條第六百四條第六百五條第六百六條第六百七條第六百八條第六百九條第七百條第七百一條第七百二條第七百三條第七百四條第七百五條第七百六條第七百七條第七百八條第七百九條第八百條第八百一條第八百二條第八百三條第八百四條第八百五條第八百六條第八百七條第八百八條第八百九條第九百條第九百一條第九百二條第九百三條第九百四條第九百五條第九百六條第九百七條第九百八條第九百九條第一千條第一千一條第一千二條第一千三條第一千四條第一千五條第一千六條第一千七條第一千八條第一千九條

之ヲ伸縮スルヲ得タルモノトス其他ノ法定期間及ヒ裁定期間ハ左ノ場合ニハ
伸長若クハ短縮スルコトヲ得
(イ) 當事者合意ノ申立アリタルキ(第一七〇條第一項)
(ロ) 當事者一方ノ申立アリテ顯著ナル理由アルトキ(然レトモ法定期間ノ短
縮伸長ハ此法律ニ特定シタル場合ニ限ル(第一七〇條第二項))
(ハ) 同一期間ノ再度ノ伸長ハ合意アルトキハ之ヲ許スコトヲ得ヘキモ若ク合
意ナキトキハ相手方ヲ審訊シタル後之ヲ許スコトヲ得ヘク又相手方々異議ヲ
述ヘタルトキハ顯著ナル差支ノ理由及ヒ其差支ヲ除去スルニ特別ノ困難アル
コトヲ證明シタルトキニ限リ之ヲ許スコトヲ得ヘシ訴訟代理人ノ差支ニ原因
スル再度ノ伸長ハ合意ノ場合ノ外之ヲ許サス(第一七一條第三項)
右期間伸縮ノ申請ヲ當事者ヨリ爲スニ當リテハ申請ノ理由ハ之ヲ疏明スヘク
又其申請ハ書面若クハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得ヘク申請ノ裁判ハ口頭辯論ヲ
經スシテ之ヲ爲スコトヲ得(第一七一條第一項第二項)期間伸長ニ付テノ申請ヲ
却下スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス(第一七一條第五項)而シテ

期間カ伸長セラレタルトキハ新期間ハ前期間ノ満了ヨリ之ヲ起算スヘキモノ
トス(第一七〇條第三項)

第四節 懈怠ノ結果及ヒ原狀回復

懈怠トハ訴訟當事者カ法定ノ時期ニ爲スヘキ訴訟行為ヲ爲ササルコトヲ謂フ
例ヘハ口頭辯論期日ニ適式ノ呼出ヲ受ケナカラ出頭セサルカ如キ又ハ不變期
間内ニ故障ノ申立、控訴ノ申立ヲ爲ササルカ如キ是ナリ而シテ訴訟行為ヲ懈怠
シタル當事者ハ法律ニ於テ其追完ヲ許ス場合ノ外ハ其訴訟行為ヲ爲スノ權利
ヲ喪失スルモノトス(第一七三條第一項)法律上追完ヲ許ス場合ハ民事訴訟法第
四十五條第三項第七十條第三項、第一百七十四條、第二百六條第三項、第二百八十四
條、第二百八十八條等はナリ

懈怠ノ結果即チ訴訟行為ヲ爲スノ失權ハ相手方ノ申立ヲ要セス當然生スルヲ
本則トス然レトモ法律ニ於テ失權ヲ爲サシムルコトニ付キ相手方ノ申立ヲ要
スル旨ヲ規定シタル場合ハ相手方ノ申立ニ依リテ始メテ失權ノ效果ヲ生スル

モノトス(第一七三條第二項)相手方ノ申立ヲ要スル場合ハ民事訴訟法第九十條
第二百二十八條第二百七十八條第二百八十三條第二百四十六條第二百四十八條第二
百六十三條第二百六十五條第三百九十三條第四百二十九條第四百四十四條等
是ナリトス

原狀回復トハ不變期間懈怠ノ結果ヲ除却スルコトヲ謂フ不變期間以外ノ期間
ハ當事者ノ申立若クハ職權ヲ以テ事情ニ因リ之ヲ伸縮スルコトヲ許スト雖モ
不變期間ヘ絕對ニ其伸縮ヲ許サス隨テ當事者ノ過失ナクシテ期間ヲ遵守スル
能ハサル場合ニ於テ懈怠ノ結果ヲ被ラシムルハ過酷ニ失スルヲ以テ之ヲ救済
方法トシテ原狀回復ノ手續ヲ設ケタリ即チ左ノ如シ

第一 原狀回復ノ要件

原狀回復ノ申立ニハ次ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス(第一七四條)

(イ) 天災其他避クヘカラサル事變ノ爲メニ原告若クハ被告カ不變期間ヲ違
守スルコトヲ得ザリシコト

(ロ) 原告若クハ被告カ故障期間ヲ懈怠シタルトキハ其過失ニ非スシテ爾處

判決ノ送達ヲ知ラザリシコト

右ノ條件ヲ具備スルトキハ不變期間ヲ遵守スルコトヲ得ザリシ原告若クハ被
告ハ原狀回復ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二 原狀回復申立ノ期間(第一七五條)

原狀回復ハ十四日ノ期間内ニ之ヲ申立タルコトヲ要ス此期間ハ障礙ノ止ミタ
ル日ヲ以テ始マル又此期間ハ當事者ノ故意ニ因リ之ヲ伸長スルコトヲ得ス而
シテ右原狀回復ニ付テノ條件ヲ具備スルモ懈怠シタル不變期間ノ終ヨリ起算
シテ一箇年ノ満了後ハ原狀回復ヲ申立タルコトヲ許サス蓋シ其時期ニ付キ何
等ノ制限ヲ設ケサルトキハ訴訟關係ヲシテ永遠ニ不確定ナラシムルノ弊害ア
レハナリ而シテ原狀回復申立ノ期間ハ伸長スルヲ得サルモ不變期間ニ非ス故
ニ裁判所ノ休暇ニ依リテ其進行ヲ停止スルモノトス

第三 原狀回復申立ノ方式(第一七六條)

原狀回復ハ追完スル訴訟行為ニ付キ裁判ヲ爲ス權アル裁判所ニ書面ヲ提出シ
テ之ヲ申立ツヘシ

此書面ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 原狀回復ノ原因タル事實、即チ天災其他避クヘカラサル事實ノ爲メニ已ムヲ得ス不變期間ヲ遵守スルコトヲ得サル事實又ハ其過失ニ非スシテ

關席判決ノ送達ヲ知ラザリシ事實

第二 原狀回復ノ疏明方法

第三 懈怠シタル訴訟行為ノ追完

追完トハ懈怠セザリシトキハ當事者ノ爲シ得ヘキ行為ヲ謂フ例ヘハ故障申立ノ行為ノ如シ

即時抗告ノ提出ヲ懈怠シタルトキハ原狀回復ノ申立ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ抗告裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得第一七六條

第四 原狀回復ノ申立ニ付テノ訴訟手續

原狀回復ノ申立ニ付テノ訴訟手續ハ追完スル訴訟行為ニ付テノ訴訟手續ト之ヲ併合ス然レトモ裁判所ハ先ツ申立ニ付テノ辯論及ヒ裁判ノミニ其訴訟手續ヲ制限スルコトヲ得ヘク而シテ申立ノ可否ニ關スル裁判及ヒ其裁判ニ對スル不服申立ニ付テハ追完スル訴訟行為ニ於テ行ハルヘキ規定ヲ適用ス故ニ原狀

回復ノ申立ヲ却下スル裁判ハ終局判決ニシテ之ヲ許ス判決ハ中間判決ナルヲ以テ原狀回復ノ申立ヲ却下スル裁判ニ對シテハ獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ルモ之ヲ許ス裁判ニ對シテハ獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ス特ニ原狀回復ノ申立ヲ爲シタル原告若シハ被告ハ其口頭辯論ニ出頭セサル爲メ關席裁判ヲ受ケタルトキハ之ニ對シテ故障ヲ申立ツルコトヲ得サルモノトス第一七七條第一項第二項

原狀回復ノ費用ハ申立人ノ負擔ス但シ相手方ノ不當ナル異議ニ因リ生シタルモノハ此限ニ在ラス第一七七條第三項

第五節 訴訟手續ノ中斷、中止及ヒ休止

訴訟手續ノ中斷、中止及ヒ休止ヲ總稱シテ訴訟手續ノ停止ト云フ即チ何レモ訴訟手續ノ進行ヲ停止スルモノナリ而シテ中斷トハ當事者又ハ裁判所ノ行為ニ依ラスシテ或事實ノ發生ニ基キ當然訴訟手續ヲ停止スルヲ謂フ例ヘハ當事者カ死亡シタルカ如シ中止トハ當事者ノ申立ニ因リ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ訴

訴訟手續ノ進行ヲ停止スルコトヲ謂ヒ休止トハ當事者ノ意見ヲミテ因リテ訴訟手續ノ進行ヲ停止スルコトヲ謂フ
 第一 訴訟手續ノ中斷
 中斷ノ原因ト爲ルヘキ事項ヲ舉クレハ左ノ如シ
 (一) 原告若クハ被告ノ死亡 原告若クハ被告ノ死亡シタル場合ニ於テハ承繼人カ訴訟手續ヲ受繼クマテ之ヲ中斷スヘキモノトス而シテ訴訟手續ノ受繼タルハ適當ノ時期ニ於テ之ヲ爲ササルヘカラサルヲ以テ若シ承繼人カ訴訟手續ヲ受繼ヲ遲滞シタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ受繼及ヒ本案ノ辯論ノ始メ其承繼人ヲ呼出スヘキモノトス此場合ニ承繼人カ期日ニ出頭シテ訴訟ヲ受繼キタルトキハ訴訟手續ノ中斷ハ茲ニ終了スルヲ以テ直ニ訴訟手續ヲ進行スヘキモノナレトモ之ニ反シテ其呼出サレタル者カ受繼ノ義務ヲ爭ヒタルトキハ此點ニ付テ裁判ヲ爲ササルヘカラス
 又承繼人カ期日ニ出頭セサルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ相手方ノ主張シタル承繼ヲ自白シタルモノト看做シ且ツ裁判所ハ開席判決ヲ以テ承繼人訴訟手續

ヲ受繼キタリト言渡スモノトス此裁判ニ對シテハ故障ヲ爲シ得ルヲ以テ此點ニ關スル裁判ノ確定セサル間ハ本案ノ辯論ヲ爲スモ無益ニ歸スルヲ恐アリ故ニ本案ノ辯論ハ故障期間ノ満了後之ヲ爲シ又故障ヲ申立タルトキハ其完結後始メテ之ヲ爲スヘキモノトス(第一七八條)
 (二) 破産ノ開始 原告若クハ被告ノ財産ニ付キ破産ノ開始シタル場合ニ於テ若シ訴訟手續カ其破産財團ニ關スルトキハ破産ニ付テノ規定ニ從ヒ管財人ヨリ訴訟手續ヲ受繼クマテ又ハ破産手續ヲ解止スルマテ其訴訟手續ハ之ヲ中斷スルモノトス蓋シ破産宣告ニ依リ破産者ハ破産手續ノ繼續中自己ノ財産ヲ占有シ管理シ及ヒ處分スル權利ヲ失フモノナレハナリ(第一七九條)
 右ハ死亡シタル原告若クハ被告ノ遺產ニ付キ破産ヲ開始シタル場合ニ於テモ亦同一ナリトス(第一八一條)
 (三) 原告若クハ被告ノ訴訟能力ノ喪失 法定代理人ノ死亡及ヒ其代理權ノ消滅 原告若クハ被告カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタルカ如キ訴訟能力ヲ失ヒタル場合又ハ法定代理人カ死亡シ又ハ其代理權カ原告若クハ被告ノ訴訟能力ヲ得ル前

ニ消滅タル場合ニハ訴訟手續ハ法定代理人又ハ新法定代理人カ其任設ヲ相手方ニ通知シ又ハ相手方カ其訴訟手續ヲ續行スルコトヲ其代理人ニ通知スルマテ訴訟手續ヲ中断ス(第一八〇條)

(四) 原告若クハ被告カ死亡シ訴訟手續ヲ中断スル場合ニ於テ訴訟手續ノ受繼ニ關シ遺產ニ付キ管理人ヲ任設スルトキハ管理人カ其任設ヲ相手方ニ通知シ又ハ相手方カ訴訟手續ヲ續行センコトヲ管理人ニ通知スルマテ中断ス(第一八一條第一八〇條)

(五) 戰爭其他ノ事故ニ因リテ裁判所ノ行務ヲ止メタルトキハ其情況ノ繼續スル間訴訟手續ヲ中断ス(第一八二條)

(六) 訴訟代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テ原告若クハ被告カ死亡シ又ハ訴訟能力ヲ失ヒ又ハ法定代理人カ死亡シ又ハ其代理權カ消滅スルトキハ委任消滅ノ通知ニ因リテ訴訟手續ヲ中断ス(第一八三條)而シテ原告若クハ被告カ死亡シタル場合ニハ前段第一號ニ準シ法定代理人若クハ管理人カ受繼ヲ爲ス場合ニハ前段第三號第四號ニ準シ受繼アルマテ訴訟手續ヲ中断スルモノトス(第一

八三條第二項)

第二 訴訟手續ノ中止

訴訟手續ノ中止ハ裁判所之ヲ命スルモノニシテ此訴訟手續ノ中止ヲ命スル決定ハ裁判所ノ職權ヲ以テスルコトアリ又當事者ノ申立ニ因ルコトアリ而シテ其申立ニ因ル場合ハ當事者カ受訴裁判所ニ訴訟手續中止ノ申請ヲ爲スヲ俟テ其決定ヲ下スモノニシテ其申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ヘク其裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス(第一八五條)

訴訟手續中止ノ場合ハ左ノ如シ

- (一) 原告若クハ被告カ戰時兵役ニ服スルトキ
- (二) 官廳ノ布令戰爭其他ノ事變ニ因リ受訴裁判所ト交通ノ絶エタル地ニ在ル
- 前二箇ノ場合ニ於テハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ障礙ノ消除スルマテ訴訟手續ノ中止ヲ命スルコトヲ得ヘキモノトス(第一八四條)
- (三) 主參加訴訟ノ提起アリタルトキ 此場合モ亦申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ

訴訟手續ノ中止ヲ命スルコトヲ得ルコトハ既ニ述ヘタル所ノ如シ第五二條
(四) 人事訴訟中離婚又ハ離縁ノ訴訟ニ於テ和解ノ調フ見込アルトキハ裁判所
ハ職權ヲ以テ一年間其訴訟ノ中止ヲ命スルコトヲ得人事訴訟手續法第一三條
第二六條

訴訟手續ノ中止ヲ命スル裁判ニ對シテハ當事者ハ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘク又
中止ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スヲ得ヘキモノトス(第
一八九條)

第三 訴訟手續中斷中止ノ效力

訴訟手續ノ中斷及ヒ中止ハ各期間ノ進行ヲ止メ又其中斷及ヒ中止ノ終リタル
後更ニ全期間ノ進行ヲ始ムル效力ヲ有ス而シテ其中斷及ヒ中止ノ間本案ニ付
キ爲シタル原告若クハ被告ノ行爲ハ他ノ一方ニ對シテ效力ナキモノトス但シ
口頭辯論後ニ生シタル中斷ハ其辯論ニ基キテ爲スヘキ裁判ノ言渡ヲ妨クルコ
トナシ(第一八六條)而シテ中斷若クハ中止シタル訴訟手續ノ受續手續並ニ中斷
ニ關スル通知ハ當事者ヨリ其書面ヲ受訴裁判所ニ差出シ裁判所ハ之ヲ相手方

ニ送達スルニ因リテ效力ヲ生ス(第一八七條)

第四 訴訟手續ノ休止

我民事訴訟法ハ屢述ヘタルカ如ク不干渉主義ヲ採用シタル結果當事者カ訴訟
手續ノ進行ヲ停止スルノ合意ヲ爲シタルトキハ之ヲ許容スヘキハ當然ナリ故
ニ明カニ休止ノ合意ヲ爲シタルトキハ勿論若シ口頭辯論ノ期日ニ於テ當事者
雙方カ出頭セザルトキハ其當事者雙方ハ訴訟手續ノ休止ヲ合意セルモノト看
做シ訴訟手續ヲ休止ス而シテ其休止ハ更ニ當事者ノ一方ヨリ口頭辯論ノ期日
ヲ定ムヘキコトヲ申立ツルマテ繼續スルモノトス然レトモ此場合ニ於ケル休
止ハ一箇年內ニ止マリ若シ其期間內ニ當事者ノ一方ヨリ此申立ヲ爲サザルト
キハ本訴及ヒ反訴ヲ取下ケタルモノト看做サルヘキモノトス

訴訟手續休止ノ效力ハ訴訟手續ノ中斷及ヒ中止ノ效力ト大差ナシ即チ訴訟手
續ノ休止ハ各期間ノ進行ヲ止メ其終リタル後更ニ全期間ノ進行ヲ始ムルノ効
力ヲ有スト雖モ不變期間ノ進行ニ關シテハ之ヲ妨クルコトヲ得サルモノトス
(第一八八條)而シテ休止中ハ當事者ハ訴訟行為ヲ爲スコトヲ得サルナリ

第四編 訴訟費用及ヒ保證

第一章 訴訟費用

訴訟費用トハ訴訟ニ關シ生シタル裁判ヲノ費用ヲ謂フモノニシテ之ヲ分チ裁判費用及ヒ其他ノ費用トス裁判費用トハ當事者カ國家ニ對シテ支拂フヘキ費用ヲ謂ヒ其他ノ費用ハ之ヲ裁判費用ト稱スヘキニ非ス例ヘハ明治二十三年法律第六十五號民事訴訟用印紙法ニ規定セル費用ノ如キハ裁判費用ニシテ明治二十三年法律第六十四號民事訴訟費用法ニ規定セル當事者相互ノ間若クハ證人鑑定人等ノ爲メニ要シタル書類ノ筆記料旅費日當等ノ如キハ裁判費用ト稱スヘキニ非サルナリ

第一 訴訟費用ノ負擔

訴訟費用ハ當事者ニ於テ負擔スヘキモノニシテ國家ニ於テ之ヲ負擔スヘキニ非ス即チ民事訴訟法ハ私權保護ヲ目的トスルモノナレハ之ニ關スル費用モ亦當事者ニ於テ支拂スヘキモノナリ而シテ當事者カ訴訟費用ヲ負擔スルノ義務

ハ私法的損害賠償ノ性質ヲ有スルモノニ非スシテ一種ノ公法上ノ義務ナリトス何レノ當事者カ負擔スヘキヤニ付テハ次ノ法則ニ依ルモノトス

(一) 訴訟費用ハ敗訴者ニ於テ負擔スヘキモノトス但シ其費用ハ裁判所ノ意見ニ於テ相當ナル權利伸張又ハ權利防禦ニ必要ナリト認ムルモノニ限ル而シテ訴訟中ニ訴ヲ取下ケ請求ヲ拋棄シ又ハ相手方ノ請求ヲ認諾スル原告若クハ被告ハ敗訴ノ原告若クハ被告ト同シク其費用ヲ負擔スヘキモノトス第七二條當事者ノ各方一分ハ勝訴ト爲リ一分ハ敗訴ト爲ルトキハ其費用ヲ相消セシメ又ハ割合ヲ以テ分擔セシムヘキモノトス費用ヲ相消スルトハ各當事者ハ其支出シタル費用ヲ自ラ負擔シ他ノ一方ニ對シテ辨濟ヲ請求スルコトヲ得サルコトヲ謂フ而シテ割合ヲ以テ分擔セシムヘキヤ又相消セシムヘキヤハ裁判所ノ意見ニ依リテ定ムヘキナリ(第七三條第一項)然レトモ裁判所ハ相手方ノ要求格外ニ過分ナルニ非ス且ツ別段ノ費用ヲ生セザリシトキ又ハ判事ノ意見鑑定人ノ鑑定若クハ相互ノ計算ニ因リ要求額ヲ定ムルニ非サレハ容易ニ過分ノ要求ヲ避クルコトヲ得ザリシ場合ナルトキハ當事者ノ一方ニ訴訟費用ノ全部ヲ負擔

- セシムルコトヲ得ヘシ(第七三條第二項)當事者ハ一次ニ訴訟費用ノ負擔ヲ負シ、無益ナル上訴又ハ取下ケタル上訴ノ費用ハ之ヲ提起シタル原告又ハ被告ニ於テ負擔スヘキモノトス(第七七條)無益ナル上訴トハ控訴上告ヲ爲シタル場合ニ其上訴カ形式上若クハ實體上理由ナキモノトシテ棄却セラレタルコトヲ謂フ
- (二) 本案ノ勝訴者ト爲リタルニ拘ラス尙ホ訴訟費用ヲ負擔スヘキ場合アリ左ノ如シ
- (イ) 被告直チニ請求ヲ認諾シ且ツ其作爲ニ因リ訴ヲ起スニ至ラシメタルニ非サルトキハ原告ハ本案ノ勝訴ト爲ルニ拘ラス訴訟費用ヲ負擔セサルヘカラス(第七四條)
- (ロ) 期日若クハ期間ヲ懈怠シ又ハ自己ノ過失ニ因リ期日ノ變更辯論ノ延期辯論續行ノ爲メニスル期日ノ指定期間ノ延長其他訴訟ノ遲滯ヲ生ゼシメタル原告若クハ被告ハ本案ノ勝訴者ト爲リタルニ拘ラス之カ爲メニ生シタル費用ヲ負擔スヘキモノトス(第七五條)
- (ハ) 無益ナル攻撃防禦ノ方法證據方法ヲ包含スル主張シタル原告若クハ被告

ハ本案ノ勝訴者ト爲ルモ裁判所ハ意見ニ因リテ其方法ノ費用ヲ負擔セシムルコトヲ得(第七六條)

(ニ) 上訴審ニ在リテハ原告若クハ被告カ前審ニ於テ主張スルコトヲ得ヘカリシ事實又ハ攻撃若クハ防禦ノ方法ヲ新ニ提出スルニ因リ勝訴者ト爲リタルトキハ裁判所ノ意見ニ因リ其原告若クハ被告ニ上訴費用ノ全部又ハ一分ヲ負擔セシムルコトヲ(第七八條第二項)

(三) 當事者カ訴訟物ニ付キ和解ヲ爲シタルトキハ其訴訟ノ費用及ヒ和解ノ費用ハ當事者別段ノ合意ヲ爲シタルトキノ外ハ相消シタルモノト看做ス(第七九條)

(四) 共同訴訟ノ場合ニ在リテハ法律ノ規定ニ從ヒ費用ニ付キ共同訴訟人ノ連帶義務ノ生セサルトキニ限り共同訴訟人ハ相手方ニ對シ平等ニ費用ヲ負擔ス然レトモ共同訴訟人ノ訴訟ニ於ケル利害關係著シク相異ナルトキハ裁判所カ其利害關係ノ割合ニ從ヒ費用ヲ負擔セシムルコトヲ得ヘタ又共同訴訟人中ノ或人カ特別ノ攻撃防禦ノ方法ヲ主張シタルトキハ他ノ共同訴訟人ハ之カ爲メ

三 生シタル費用ヲ負擔セサルモノトス(第八〇條)

(五) 從參加ニ對シ原告若クハ被告カ異議ヲ述べタルトキハ其異議ニ付テノ決定ニ於テ從參加人ト其原告若クハ被告トノ中間訴訟ノ費用ニ付キ前第一號第二號ニ述ベタル法則ニ基キ費用ノ負擔者ヲ裁判スヘク又從參加ヲ許シタルトキ又ハ異議ヲ述べタルトキハ本訴訟ノ判決ニ於テ從參加人ト相手方ナル原告若クハ被告トノ間ニ從參加ニ因リテ生シタル費用ニ付テモ亦前段ノ法則ニ從ヒ負擔者ヲ裁判スヘキモノトス(第八一條)

以上述ベタル所ハ訴訟當事者カ訴訟費用ヲ負擔スヘキ場合ナレドモ右ノ外第三者ヲシテ訴訟費用ノ負擔ヲ命スルコトアリ即チ裁判所書記法定代理人辯護士其他ノ代理人及ヒ執達吏ノ過失又ハ懈怠ニ因リ費用ノ生シタルトキハ此等ノ者ニ當事者ノ申立ニ因リ若クハ職權ヲ以テ其費用ノ辨濟ヲ負擔セシムルコトヲ得ヘシ(第八三條)

第二 訴訟費用負擔ニ關スル裁判

訴ノ取下請求ノ拋棄認諾和解並ニ上訴取下ノ場合ニ於テハ特ニ裁判ヲ要セス

權アルコトハ民事訴訟法第七百六十一條カ占ムル位置ヨリシテ疑ナキ所ナリ隨テ同條ニ所謂「係爭物」ヲ民事訴訟法第七百五十五條第一項ニ於ケル「係爭物」ト同視スヘカラス

係爭物所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ依レル假處分命令ニ關スル裁判ハ口頭辯論ヲ經タルト否トニ拘ラス決定ノ形式ヲ以テ之ヲ爲スマルケル「ヘルマン氏等」ハ口頭辯論ヲ經テ爲シタル裁判ノ形式ハ假差押手續ニ於ケルト同シク終局判決ニシテ決定ニ非スト論結スレトモ「ガウブ」「フキフエルド」「ウキルモースキ」氏等ノ反對スル所ニシテ又余輩ノ探ラサル所ナリ何トナレハ民事訴訟法第七百四十二條第一項第七百四十五條第七百四十六條第七百四十七條等ニ於ケルカ如ク終局判決ヲ以テ裁判スヘキ旨ヲ規定セサルヲ以テ民事訴訟法第七百六十一條第三項ニ所謂口頭辯論(第七百六十一條第三項ニ所謂「右裁判」ハ本條ニ掲ケタル裁判ヲ意味スルモノニシテ唯同條第二項ノ裁判ノミニ關係スト解スヘカラス)ハ任意的口頭辯論ニシテ又裁判ノ形式ハ決定ナリト謂ハサルヘカラスルノミナラス係爭物所在地ヲ管轄スル裁判所ノ裁判ハ元來假定ノ性質ヲ有

スルニ過キサレハナリ隨テ當事者ノ一方カ關席スルモ關席判決ヲ爲スコトヲ得ス裁判ノ形式該區裁判所ハ假處分カ申請ヲ正當ト認メ假處分命令ヲ發シタルトキハ同時ニ職權ヲ以テ申請人ニ對シ假處分當否ニ付テノ口頭辯論ヲ爲メ本案ノ管轄裁判所ニ相手方ヲ呼出スヘキ申立ノ期間ヲ定メサルヘカラス第七六一條第一項該期間ハ一ノ裁判上ノ期間タリ故ニ同意又ハ申立ニ因リ伸縮スルコトヲ得又休暇ニ因リ其進行ヲ停止セス(第一七〇條裁判所構成法第一二九條面シテ裁判所カ斯ル期間ノ指定ヲ遺脱セタルトキハ之カ爲メニ假處分ノ無效ト爲ルモノニ非ス寧ロ債權者若クハ相手方ノ申立ニ因リ何時ニテモ期間指定ノ補充ヲ爲スコトヲ得其他相手方ノ放棄殊ニ其同意若クハ假處分ノ正當ナル旨ノ認諾ニ因リ又ハ債權者カ本案ノ管轄裁判所ニ於テ任意ニ假處分ノ當否ニ關スル手續ヲ開始シタルニ因リ期間指定ノ補充ヲ省略スルコトヲ得債務者ハ假處分命令ヲ發シタル區裁判所ノ裁判ニ對シテ抗告ヲ爲メ又民事訴訟法第七百四十四條及ヒ第七百四十五條ニ基ク異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス唯裁判所ノ指定期間ヲ債權者カ徒過シタル場合ニ於テ區裁判所ニ對シ其發シタル假處

分取消ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルノミ蓋シ假處分ノ當否ハ本案ノ管轄裁判所カ裁判スヘキモノナレハナリ(假處分ノ命令及ヒ之ニ對スル不服ノ申立假處分ノ當否ニ付テノ口頭辯論ノ爲メ相手方ヲ本案ノ管轄裁判所ニ呼出スヘキ申立ヲ爲ス者ハ債權者ニシテ債務者ニ非ス然レトモ債務者ハ本案ノ管轄裁判所ニ於テ假處分ノ當否ニ付キ裁判ヲ受クルノ權利アルヲ以テ之カ爲メニ債權者ヲ該裁判所ニ呼出ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ本案ノ管轄裁判所ハ當事者ノ申立ニ因リテ假處分ノ當否ニ付テノ口頭辯論ヲ爲メ相手方ヲ呼出シテ該辯論ヲ開始ス第七六一條面シテ該辯論ハ民事訴訟法第七百四十二條第七百四十五條第七百四十六條第七百四十七條ニ於ケル口頭辯論ト同シタ義務的口頭辯論ニシテ其裁判ノ形式ハ終局判決ニシテ又其内容ハ區裁判所ノ發シタル假處分命令ノ認可變更及ヒ取消タリ(第七五六條第七四五條等但シ本案ノ管轄裁判所ハ假處分ノ當否ニ付テノ裁判前ニ區裁判所ノ發シタル假處分命令ノ執行ヲ停止スルノ權限ナシ(第五〇〇條第五一二條又本案ノ終局ニ至ルマテ假處分當否ニ關スル手續ノ中止ヲ命スルノ權限ナシ蓋シ本案ノ管轄裁判所ハ唯民事訴訟法第

七百六十一條ニ於テ規定シタル手續ニ於テ假處分ノ當否ニ付キ判決ヲ以テ裁判スルノ權限ヲ有スルノミナレハナリ債權者カ相手方ヲ本案ノ管轄裁判所ニ呼出スヘキ申立ニ付テノ期間ヲ徒過シタルトキハ區裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ其利益ノ爲メニ假處分ノ命令ヲ取消スノ裁判ヲ爲ス此場合ニ於テ區裁判所ハ債務者ノ口頭辯論ヲ經シテ裁判スルコトヲ得又債務者ノ爲シタル期間徒過ノ主張ニ付キ申請者タル債權者ヲ審訊スヘキ義務ヲ負ハス故ニ債權者ハ指定期間ニ本案ノ管轄裁判所ニ假處分ノ當否ニ關スル辯論開始ノ申立ヲ爲シタル旨ノ證明ヲ區裁判所ニ爲スノ義務ヲ負ハサレトモ之ヲ爲スヲ適當トス然レトモ區裁判所ハ指定期間ノ伸長カ法律上許サルヘキモノナルヲ以テ期間經過後ニ於ケル呼出ノ申立ヲ斟酌スルノ權利ヲ有シ又假處分取消ノ申立ニ關スル裁判ノ爲メニ口頭辯論カ開始セラレタルトキハ其辯論終結マテニ爲シ且ツ證明セラレタル期限經過後ニ於ケル呼出ノ申立ヲ斟酌スルノ義務ヲ負フ(第二一四條)獨逸舊民事訴訟法第二〇九條第二項參照假處分取消ノ決定ニ對シテ何等ノ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス何トナレハ該決定ハ假處分ノ命令ヲ取消

スモノニシテ其執行ヲ取消スモノニ非サルヲ以テ民事訴訟法第五百五十八條ノ適用ナキハ勿論民事訴訟法第七百五十四條第四項ノ準用ナケレハナリ假處分當否ニ付テノ裁判及ヒ假處分取消ニ關スル裁判

係爭物所在地ノ管轄裁判所カ假處分ノ申請ヲ不當ト認メ之ヲ却下シタルトキハ債權者ハ該裁判ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得(第四五五條)申請却下ノ裁判及ヒ之ニ對スル不服申立係爭物所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ行動ハ甚タ制限セラレタルモノニシテ民事訴訟法第七百三十九條ニ於テ規定シタル區裁判所カ假差押裁判所トシテ行動スルカ如ク假處分裁判所トシテ行動スルモノニ非ス唯急迫ノ場合ニ假處分ノ命令ヲ發シ又指定期間徒過ノ場合ニ之ヲ取消スノミ故ニ其他ノ總テノ裁判殊ニ情況ノ變更第七四六條若クハ保證ニ依レル取消第七五九條並ニ民事訴訟法第七百四十六條ノ規定ニ依レル假處分ノ取消ハ本案ノ管轄裁判所ノ管轄ニ屬シ區裁判所ニ於ケル手續費用ノ負擔ヲ定メ且ツ費用確定決定ヲ發スルコト亦然リ區裁判所ノ行動ハ一時ノ性質ヲ有スルモノナルヲ以テ事件カ本案ノ管轄裁判所ニ繫屬スルヤ否ヤ直チニ消滅スルヲ當然トス

(係爭物所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ權限)

特別ノ第二。ハ係爭物及ヒ假ノ地位確定ニ關スル假處分ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ノ選定ヲ裁判所ノ自由ナル意見ニ委任セラレタルコト是ナリ假處分ニ因リ避クヘキ危險ハ甚タ複雑ナルヲ以テ其防禦手段ヲ豫想シテ之ヲ規定スルコトハ殆ト爲スコトヲ得ザル所ナリ是レ我民事訴訟法カ假差押手續ト異ニシテ裁判所ヲシテ假處分ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ選擇セシムル所以ナリ故ニ裁判所ハ適當ナル處分ヲ選擇スルニ當リ當事者ノ申立ニ拘束セラレルコトナシ又上告裁判所ハ違法ナル裁判ト爲ラサル限ハ假處分ヲ命シタル裁判所ノ選定シタル處分ノ當否ヲ調査スルコトヲ得ス

裁判所ハ動産及ヒ不動産ノ保管ヲ命シ行爲若クハ不行爲ヲ強制スルカ如キ強制執行ノ限界ニ於テ適當ナル處分ヲ選擇スルコトヲ得殊ニ民事訴訟法第七百五十八條第二項ニ於テ例示スルカ如ク保管人ヲ置キテ動産不動産及ヒ人ヲ監守セシメ相手方ニ行爲ヲ命シテ建物ヲ支持セシメ若クハ行爲ヲ禁シテ不行爲ヲ命シテ道路ノ通行ヲ止メ給付ヲ命シテ資料ヲ支拂ハシムルコトヲ得而シテ

保管ヲ命シタル假處分ノ執行ハ目的物カ動産若クハ不動産ナルトキハ執達吏ノ共力ヲ以テ之ヲ爲シ(第七三〇條第七三一條第三者ニ對スル債務者ノ權利ナルトキハ差押命令ヲ以テ之ヲ爲シ(第七三二條金錢ノ支拂ヲ目的トセザル行爲若クハ不行爲ノ執行ハ民事訴訟法第七百三十三條乃至第七百三十五條ニ則リテ之ヲ爲シ不動産ノ讓渡若クハ抵當ヲ禁止シタル假處分ノ執行ハ假處分命令ヲ發シタル裁判所カ執行裁判所トシテ該禁止ヲ登記簿ニ記入スヘキ旨ヲ登記判事ニ囑託シ該判事カ之ヲ爲スニ依リテ之ヲ爲ス(第七五八條第三項第七五一條)

特別ノ第三。ハ保證ヲ立テシメテ爲ス假處分ノ取消ハ唯特別ノ情況アルトキニ限り例外トシテ之ヲ許スコト是ナリ蓋シ特定給付ノ保全及ヒ假ノ地位ノ確定ハ通常金錢の擔保ヲ以テ代償セラルルモノニ非サルヲ以テ之ヲ換言セハ假處分ノ目的ハ通常保證ヲ立ツルコトニ因リテ達スルコト能ハサルモノナルヲ以テ特定金額ノ供託ニ依リ假處分ノ取消ヲ請求スヘキ債務者ノ權利ノ特別ノ情況アルトキノ制限ノ下ニ於テ認メタリ特別ノ情況ノ存否ハ裁判所カ自由ニ

判斷スル所ナリ故ニ裁判所ハ假差押ト異ニシテ特別ノ情況ノ存スルモノト認メタル場合ニ非スンハ民事訴訟法第七百四十三條第七百四十五條第二項第七百四十六條第一項ニ則リ保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消裁判ヲ爲スコトヲ得ス假處分ノ執行ヲ取消ス裁判ハ決定ノ形式ヲ以テ第七百五十四條第一項又假處分ノ命令ヲ取消ス裁判ハ終局判決ノ形式ヲ以テ之ヲ爲ス後者ノ判決ニハ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ付シ第五〇一條第四項占占有狀態ノ確定ノ如キ唯一時ノ處分ニ關シテハ中立ニ因リ原狀ノ回復ヲ命スルコトヲ得然レトモ假處分ノ結果トシテ既ニ給付シタルモノ例ヘハ養料ノ返還請求カ假處分ノ取消ヲ爲シタル場合ニ成立スルヤ否ヤハ民法ニ從ヒテ定ムル所ニシテ民事訴訟法ニ從ヒテ定ムルモノニ非ス其他假處分ノ費用ハ其取消カ假處分ヲ不當ナリトスル理由ニ基クトキニ限リ申立人ノ負擔ニ屬ス又保證ヲ立テタル後ニ於テ執行機關ニ依レル執行行為並ニ執行處分ノ停止並ニ取消タルヲ言フ埃タス第五五〇條第五一一條

公示催告手續及ロ仲裁手續

第一章 公示催告手續

(一) 意義及ヒ要件

公示催告ハ失權ノ效力ヲ付シテ不分明ノ相手方ニ對シ其有スル請求又ハ權利ヲ行使セシムルカ爲メニ公示シテ爲ス裁判上ノ催告ナルヲ以テ公示催告手續トハ法律ニ定メタル場合ニ限り不分明ノ相手方ニ對シ其有スル請求又ハ權利ヲ失權ノ效力ヲ付シテ裁判所ニ届出ツヘキ旨ヲ公示シテ催告スル裁判上ノ手續ナリト謂フコトヲ得ヘシ是ヲ以テ公示催告手續ノ要件トシテ第一ニ催告ハ裁判所ノ發シタルモノナルコトヲ要ス蓋シ公示催告手續ハ一ノ特別訴訟手續タレハナリ(ワッハ氏ハ非訟事件ト認ムルモノノ如シ)故ニ當事者ノ爲シタル催告殊ニ債務履行ノ催告第五四一條ハ茲ニ所謂公示催告ニ屬セス第二ニ催告ハ不分明ナル相手方ニ對シ公示シテ爲スモノナルコトヲ要ス不分明ノ相手方トハ獨リ居所ノ不分明ナル相手方ノミナラス何人タルコト分明ナラサル相手方

ヲ包含ス故ニ公示催告ハ不在者又ハ何人タルコト分明ナラサル相續債權者ニ對シテ爲スコトヲ得ヘシ分明ナル特定ノ相手方ニ對シテハ其有スル請求又ハ權利ノ行使ヲ公示シテ催告スルノ必要ナシ第三ニ催告ハ裁判所ニ請求又ハ權利ノ届出ヲ爲サシムルカ爲メタルコトヲ要ス民事訴訟法第七百六十四條第一項ニ於テ「請求又ハ權利ノ届出ト規定シタルハ届出ノ目的カ既ニ請求ノ形體ヲ有シタル權利ノミナラス公示催告ノ申立人カ請求ノ成立ノ爲メニ保全行爲トシテ爲ス權利正當ノ希望ヲ包含スタルコトヲ示シタルニ外ナラス故ニ未タ特定ノ事項ヲ要求スルノ程度ニ達セサル利害關係人ノ權利狀態モ亦届出ノ目的ト爲ルコトヲ得ヘシ第四ニ催告ニハ届出ヲ爲ササレニ失權ヲ生スル效力アルコトヲ要ス催告ニ應シテ届出ヲ爲ササリシ相手方ハ之ニ因リテ損害ヲ受ク其損害ハ權利ノ喪失又ハ其主張ノ困難タリ第七百六十四條第一項ニ於テ「失權ヲ生ズル效力ト規定シタルハ甚タ狭キニ失ス又其損害ハ特別法ノ規定ニ因リテ法律上當然生スルコトアリ或ハ除權判決ノ言渡ニ因リテ生スルコトアリ蓋シ我民事訴訟法ハ除權判決ヲ以テ失權ノ效力發生ノ前提要件ト爲ササリシヲ以テ

ナリ民事訴訟法第七百六十九條ハ唯失權ノ效力發生ニ付キ除權判決ヲ要スル場合ニ於ケル手續ヲ規定シタルニ止マレハナリ而シテ失權ノ效力ヲ發生スルニ非スシテ單ニ無効ナル法律關係カ有效ナル外觀ヲ有スルコトヲ防止スル爲メニスル催告ノ如キハ公示催告ニ屬セス第五ニ催告ハ法律ニ定メタル場合ニ屬スルコトヲ要ス民事訴訟法ハ公示催告ノ手續ヲ規定シ之ヲ許スヘキ法律關係前提要件申立權者及ヒ失權ノ效力範圍等ヲ規定セスシテ實體法ニ讓リタリ蓋シ斯ル事項ハ民事訴訟法ニ於テ規定スヘキモノニ非サレハナリ民事訴訟法第七百六十四條第一項ニ於テ「法律ニ定メタル場合ニ限リト規定シタルハ斯ル法意ニ外ナラス」民法施行法第五七條人事訴訟手續法第七〇條商法第二八一條(二) 催告手續ノ通知 民事訴訟法ハ催告手續ノ通則トシテ管轄裁判所公示催告申立ノ形式之ニ付我民事訴訟法ハ催告ノ内容公示催告ノ公告公示催告期間除權判決不服申立ノ訴及ヒ公示催告ノ併合ヲ規定シタリ(三) 管轄裁判所 公示催告手續ハ實體法ノ規定ニ從ヒテ不分明ノ相手方ニ對

シ其有スル請求又ハ權利ヲ失權ノ效力ヲ付シテ裁判所ニ届出ツヘキ旨ヲ公示シテ催告スルノ權利アル者ノ申立ニ因リテ開始ス該申立ニ關スル事物ノ管轄ハ區裁判所ニ屬ス第七四條第二項獨逸裁判所構成法第二三條第二號是レ事件カ其性質上簡易ナルヲ以テナリ土地ノ管轄ハ民事訴訟法第七百七十九條ニ規定シタルモノヲ除ク外民事訴訟法ニ規定セシメ示レ公示催告ヲ許ス法律關係ノ種類ニ從ヒ適當ナル規定ヲ實體法ニ於テ設ケシムルノ法意ニ外ナラス

(B) 申立ノ形式 公示催告ハ實體法ノ規定ニ從ヒテ申立權ヲ有スル者ノ申立ニ因リテ之ヲ爲シ裁判所カ職權ヲ以テ之ヲ爲スモノニ非ス不干涉審判主義ノ適用該申立ハ申請ノ形式ヲ以テシ訴ノ形式ヲ以テセサルコトハ明白ニシテ又區裁判所ノ管轄ニ屬スルカ故ニ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得第七六五條第一項第三七四條而シテ申立ニ表示スヘキ事項即チ内容ハ公示催告ヲ許ス法律關係ノ種類ニ從ヒテ各異ナレリ故ニ通則トシテ民事訴訟法ニ於テ之ヲ規定セシメ(第七八〇條參考)

(C) 申立ニ付テノ裁判 管轄裁判所ハ公示催告ヲ爲ス以前ニ於テ職權ヲ以テ

實體法ニ從ヒ公示催告ノ申立ヲ許スヘキヤ否ヤヲ調査セサルヘカラス而シテ申立ヲ直チニ却下スルコトヲ欲セサルトキハ申立人ニ書面又ハ口頭ニテ其申立ヲ釋明シ又ハ補充セシムルコトヲ得又同一ノ目的ノ爲メニ職權ヲ以テ申立人ヲ呼出シ口頭辯論ヲ命スルコトヲ得此場合ニ於ケル口頭辯論ハ片面的口頭辯論タリ斯ル場合ニ於テ申立人カ出頭セサルトキハ唯提出セラレタル申立ニ基キテ裁判ヲ爲シ關席判決ニ關スル規定ニ依ルヘキモノニ非ス管轄裁判所ハ其調査ノ結果申立ヲ不當ナリト認メタルトキハ決定ヲ以テ申立ヲ却下スヘキ旨ノ裁判ヲ爲シ決定ノ形式ヲ以テ裁判スルハ申立ニ付テノ裁判カ口頭辯論ヲ前提要件ト爲ササル法意ヨリシテ疑ヲ容レサル所ナリ該決定ハ言渡ヲ爲ササル場合ニ於テハ迅速ヲ爲ササルヘカラス(第二四五條第三項又該決定ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得第四五條)而シテ申立カ除去スルコトヲ得ヘキ欠缺ノ爲メニ却下セラレタルモノナルトキハ爾後適當ノ補充ヲ爲シ何時ニテモ更ニ申立ヲ爲スコトヲ得ルヤ當然ナリ之ニ反シテ申立ヲ正當ナリト認メタルトキハ公示催告ヲ爲ス而シテ此公示催告ハ申立ヲ是認シタル裁判ヲ當然包含スルモノ

ナルヲ以テ決定ノ形式ニ於テ申立人ニ言渡ヲ爲ササル以上ハ職權ヲ以テ送達ヲ爲ササルヘカラス(第二四五條)裁判所カ申立ノ條件附又ハ其他ノ方法ニテ正當ナリト認メタルトキハ特別ノ決定ヲ以テ公示催告ノ體裁及ヒ之ヲ許スヘキ旨ヲ宣告シ申立人ヲシテ抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ欲スルカ又ハ裁判所カ適當ニ認メタル方法ニ從ヒテ公示催告ヲ爲スコトヲ欲スルカヲ選定セシム

(D) 公示催告ノ内容 公示催告ノ内容即チ公示催告ニ表示スヘキ事項ハ各場合ニ於ケル法律關係ニ從ヒ實體法ノ規定裁判所ノ意見及ヒ申立人ノ利害ヲ標準トシテ之ヲ定メ民事訴訟法第七百六十五條第三項ハ例示的ニ必要ニシテ缺クヘカラサル事項ヲ規定シタリ(第七六五條第三項)………茲ニ………引用其第一ハ申立人ノ表示ニシテ通常申立人ノ氏名住所身分及ヒ職業ヲ表示セテ之ヲ爲ス其第二ハ請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテニ届出ツヘキ旨ノ催告ニシテ單純ナル期日ノ指定ヲ以テ足レリトセス其第三ハ届出ヲ爲ササルニ因リ生スヘキ失權ノ表示ニシテ這ハ民事訴訟法第七十三條第二項ニ規定シタル原則ノ例外

ヲ爲スモノタリ失權ハ實體法ニ從ヒテ生スルモノナレトモ公示催告中ニ於テ失權ノ表示ハ公示催告ノ申立ニ符合セサルヘカラス隨テ該申立ト異ナル失權ノ表示ヲ爲スヘキ公示催告ハ其申立人ノ同意ナクシテ之ヲ爲スコトヲ得ス故ニ單ニ實體法ニ於ケル内容ヲ表示スルヲ以テ其效力アルモノト認ムヘカラス其第四ハ公示催告期日ノ指定ニシテ這ハ届出期間ノ終了期ト爲リ(第七六八條)………看做ス引用除權判決ノ申立(第七六九條)及ヒ該期日ニ又ハ其以前ニ爲シタル届出ニ關スル辯論期日ト爲ル

届出ハ其之ヲ爲スヘキ者ニ除權セラルヘキ處アル請求又ハ權利ノ存スルコトヲ知ラシムル旨ノ意思表示ニシテ請求ノ主張ニ非ス隨テ其理由ヲ付シ又之ヲ證明スルノ要ナシ性質届出ハ公示催告ヲ命シタル裁判所ニ之ヲ爲スヘク申立ヲ爲スモ其效ナシ又其届出ハ其形式ニ付キ法律上何等ノ明文ナキヲ以テ書面又ハ口頭ニテ公示催告期日以外ニ之ヲ爲スコトヲ得若クハ該期日ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得後者ノ場合ニ於テハ調書ニ其旨ヲ記載セサルヘカラス届出ノ時期ハ除權判決前タルコトヲ要シ公示催告期日ノ終局前タルコトヲ要セス故

ニ裁判所カ熟慮スルカ爲メニ又ハ其他ノ理由ニ因リ(第七六九條第二項、第七七一條、第七七二條、第七七四條)公示催告期日ニ於テ直チニ除權判決ヲ言渡ラスシテ新期日ヲ定メタル場合ニ於テハ該判決ノ言渡アルマテ有效ニ届出ヲ爲スコトヲ得且ツ成ルヘク懈怠シタル行爲ヲ追完セシムルコトヲ得セシムルノ法意ニ外ナラス(第七六八條)届出ノ形式及ヒ時期

(E) 公示催告ノ公示及ヒ公示催告期間、公示催告ハ裁判所書記カ公示催告ヲ爲シタル決定ニ基キ職權ヲ以テ之ヲ公告ス(第一五七條第一項)參考而シテ其公告ノ方法ハ(1)裁判所ノ掲示板ニ公示催告ノ正本ヲ揭示シ(2)官報又ハ公報ニ公示催告ノ全文ヲ掲載シ(3)公示催告ノ抜抄ヲ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ一同又ハ數同掲載シテ之ヲ爲ス(1)及ヒ(2)ハ命令、規定ナルヲ以テ他ノ特別法ニ於テ之ヲ變更スルコトヲ得ス又他ノ特別法ニ於テ別段ノ公示方法ヲ設ケタルトキト雖モ(1)及ヒ(2)ノ公示方法ハ之ヲ省略スルコトヲ得ス然レトモ(3)ハ補充的公示方法ヲ規定シタルモノニ過キサルヲ以テ若シ他ノ特別法ニ於テ別段ノ公示方法ヲ設ケタルトキハ後者ニ依ルヘキヤ當然ナリ證書無効ノ宣告ヲ爲ス場合ニ

(五) 日本ノ國籍ヲ失フヘキ者又ハ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ爲スヘキ届出ハ何レモ戶籍法上ノ義務トシテ之ヲ爲スヘキモノトス但シ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ爲スヘキ届出ニ付テハ届出期間ノ定アルカ故ニ之ヲ怠リタルトキハ過料ニ處セラルルモ(第二一〇條)日本ノ國籍ヲ失フヘキ者カ爲スヘキ届出ニ付テハ届出期間ノ定ナキカ故ニ之ヲ怠リタルトキト雖モ制裁ナシ

(第六) 國籍ノ回復

(一) 婚姻ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ婚姻解消ノ後日本ニ住所ヲ有スルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ヲ回復スルコトヲ得(國籍法第二五條)日本ノ國籍法第二十條又ハ第二一條ノ規定ニ依リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ日本ニ住所ヲ有スルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ヲ回復スルコトヲ得但シ同法第十六條ニ掲ケタル者カ日本ノ國籍ヲ失ヒタル場合ハ此限ニ在ラズ(同法第二六條)

(二) 日本ノ國籍ヲ回復シタル者ハ國籍回復ノ許可ヲ得タル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ内務大臣ノ許可書ノ原本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス(第一

六三條

- 一 日本ノ國籍ヲ失ヒタル原因及ヒ年月日
- 二 國籍回復前ニ有セシ國籍 日本ノ國籍ヲ回復スル前ニ有セシ最後ノ國籍ヲ指ス故ニ例ヘハ日本ノ女カ婚姻ニ因リ英吉利ノ國籍ヲ取得シ更ニ英吉利ノ國籍ヲ失ヒ佛蘭西ノ國籍ヲ取得シタル後日本ノ國籍ヲ回復シタル場合ニ在リテハ佛蘭西ノ國籍ヲ有シタル旨ヲ記載スルコトヲ要スルモ英吉利ノ國籍ヲモ有シタル旨ヲ記載スルコトヲ要セス
- 三 國籍回復ニ付キ内務大臣ノ許可ヲ得タル年月日
- 四 國籍回復者ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シ又ハ之ヲ回復シタル者アルトキハ其名出生ノ年月日職業及ヒ其者ト國籍回復者トノ續柄 國籍回復者ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シ又ハ之ヲ回復スル者ニ付テハ國籍法第二十七條ヲ參照スヘシ
- 三 國籍ノ回復ハ内務大臣ノ許可ニ因リテ其效力ヲ生ス而シテ前二ノ届出ハ既ニ效力ヲ生シタル事項ニ關シ戸籍法上ノ義務トシテ爲スヘキ届出ナリ

(四) 國籍回復者ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ回復者ト戸主トノ續柄ハ戸籍法第四章第一節通則第四十五條ノ規定ニ依リ届書ニ之ヲ記載セサルヘカラス

第二十節 氏名及ヒ族稱ノ變更ニ關スル届出

(第一) 總論

- (一) 本節ニ於テハ氏ノ復舊名ノ改稱及ヒ族稱ノ變更ニ關スル届出ノ手續即チ戸籍法第四章第二十節ノ規定ヲ説明スヘシ
- (二) 本節ニ掲グル各種ノ届出ハ何レモ既ニ效力ヲ生シタル事項ニ關シ戸籍法上ノ義務トシテ法定期間内ニ爲スコトヲ要スル届出ニ屬ス

(第二) 氏ノ復舊及ヒ名ノ改稱ニ關スル届出

- (一) 氏ハ家ノ表示ニシテ名ハ人ノ表示ナリ一ノ家ニハ一ノ氏アルコトヲ要シ二ノ人ニハ一ノ名アルコトヲ要ス

注意 封建時代ニ在リテハ庶民僧尼ニハ氏ナキヲ通則トシ士以上ハ通稱ト名乗例ヘハ九郎ハ通稱ニシテ義經ハ名乗ナリト有スルヲ通則トシタリ然

レトモ維新後明治三年九月十九日布告及ヒ明治五年五月第四百十九號布告ヲ以テルチ家ニハ氏アルコトヲ要シ通稱名乘兩様用ヒ來レル者モ一名ニ限ルヘキコトトセリ

氏ト名トハ之ヲ改稱スルコトヲ禁ス但シ正當ノ事由アルトキハ氏ノ復舊名ノ改稱ニ限リ特ニ之ヲ許可ス

氏ノ改稱トハ氏ヲ變更スルヲ謂ヒ氏ノ復舊トハ一旦氏ヲ變更シタル後更ニ前氏ニ復舊スルヲ謂フ例ヘハ徳川時代ニ山田氏ヲ松平氏ニ變更シタル者カ山田氏ニ復舊スルトキノ如キ是ナリ家ニ變更アリタル爲メ氏ニ變更アル場合ハ之ヲ氏ノ改稱又ハ復舊ト謂ハス故ニ例ヘハ渡邊氏ヨリ婚姻ニ因リ坂田氏ニ入ルモ之ヲ氏ノ改稱ト謂ハス離婚ニ因リ坂田氏ヨリ渡邊氏ニ復歸スルモ之ヲ氏ノ復舊ト謂ハス要スルニ氏ノ改稱又ハ復舊トハ他ノ家ニ轉屬セシ爲メ其結果トシテ其入リタル家ノ氏ヲ稱スル場合ヲ指スニアラス家ニ變更ナクシテ任意ニ氏ヲ變更スル場合ヲ謂フ

名ノ改稱トハ例ヘハ權兵衛ト稱スル者カ八兵衛ト其名ヲ變更スルカ如キヲ謂

(注意) 近隣ニ同氏名ノ者アルトキ等正當ノ事由アルトキハ氏ニ付テハ戸主名ニ付テハ本人ノ願出ニ因リ行政官廳ハ氏ノ復舊又ハ名ノ改稱ヲ許可スルコトヲ得此許可ノ管轄官廳ハ地方長官ナルモ地方ニ依リテハ其事務ヲ郡長等ニ委任シタルアリ

向ホ氏名及ヒ其變更ニ付テハ明治五年太政官布告第二百三十五號明治九年

布告第五號等ヲ參照スヘシ

(二) 氏ヲ復舊シ又ハ名ヲ改稱シタル者ハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ管轄官廳ノ許可書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス第一六四條

一 復舊又ハ改稱前ノ氏名

二 復舊シタル氏又ハ改稱シタル名

三 復舊又ハ改稱ノ原因及ヒ許可ノ年月日 原因トハ許可ヲ願出ツルニ至

リタル事由ヲ謂フ

(第三) 族稱ノ變更ニ關スル届出

(一) 族稱トハ華族、士族及ヒ平民ノ總稱ナリ。
明治ノ初メ公卿諸侯ヲ華族ト爲シ大夫士卒郷士等ヲ士族ト爲シ農工商僧尼職多非人等ヲ平民ト爲シタリ。明治二年六月十七日布告同年十二月二日布告明治四年八月二十九日布告等然レトモ華族ト士族ト平民トヲ總稱シテ族稱ト謂フハ戸籍法ニ始マル。

(注意) 戸籍法實施以前ニ在リテハ族稱ヲ身分ト謂フヲ通例トシタリ。

(二) 族稱ハ戸主ノミ之ヲ有シ家族ハ之ヲ有セザルヲ原則トス家族カ族稱ヲ有スルハ其者カ新ニ華族ニ列セラレタル場合ニ限ル。

(注意) (イ) 新ニ華族ニ列セラレタル場合ヲ除ク外家族ハ族稱ヲ有セザルモノナルコトハ明治二年六月十七日布告同年十二月二日布告等特ニ明治十七年七月宮内省達華族令第六條ニ徴シ明白ナリ。

(ロ) 華族戸主ノ家ニ在ル家族ハ華族ニアラス但シ其家族中祖父母、父母、妻、嫡長子孫及ヒ嫡長子孫ノ妻ニ限リ華族ト同一ノ禮遇ヲ受ク其他ノ家族ハ華族ト同一ノ禮遇ヲモ受クルコトナシ(華族令第六條)

士族戸主若クハ平民戸主ノ家ニ在ル家族モ亦士族若クハ平民ニアラス

(ハ) 山尾庸三花房義實ノ兩氏ハ家族ニシテ華族ニ列セラレタル者ナリ

士族戸主又ハ平民戸主ノ家ニ在ル家族カ類ニ華族ニ列セラレタルトキト雖モ之カ爲メ戸主ハ華族ト爲ルコトナシ

(三) 戸主カ死亡シ又ハ隱居其他ノ事由ニ因リテ其地位ヲ去リタルトキ(但シ華族令第七條ニ依リ華族戸主ハ生存中其地位ヲ去ルコトヲ得ス)ハ家督相續人ハ其族稱ヲ承繼ス但シ華族ノ族稱ニ限リ家督相續人カ之ヲ承繼スルコトヲ得サル場合アリ其詳細ニ付テハ華族令第四條第十四條ヲ參照スヘシ

(注意) 前戸主カ士族又ハ平民ナリシ場合ニ於テ家督相續人カ華族ニ列セラレタル家族ナルトキハ其者ハ前戸主ノ族稱ヲ承繼スルコトナク依然トシテ華族ノ族稱ヲ保有スヘキモノナリト信ス

(四) 華族ノ族稱ヲ有スル者ハ左ノ場合ニ於テ其族稱ヲ失フ

一 刑ノ宣告ニ因リ公權ヲ剝奪セラレタルトキ(刑法第三一條第三號)

二 監視ニ付セラルヘキ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ又ハ華族タルヲ體面

ヲ汚辱スル失行アリタルトキハ宮内大臣ハ華族令第十八條ノ手續ヲ經テ

其族稱ヲ奪フ華族令第一三條第一六條第一八條

三 華族ノ品位ヲ保ツコト能ハサル者カ其族稱ヲ辭セント欲シ之ヲ願出タルトキハ宮内大臣ハ華族令第十八條ノ手續ヲ經テ之ヲ許可ス華族令第

一五條第一八條

四 華族タル戸主カ其地位ヲ去リタルトキ又ハ華族ニ列セラレタル家族カ

日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ

士族ノ族稱ヲ有スル者ハ左ノ場合ニ於テ其族稱ヲ失フ

一 刑ノ宣告ニ因リ公權ヲ剝奪セラレタルトキ刑法第三一條第三號

二 新ニ華族ニ列セラレタルトキ

三 士族ノ族稱ヲ辭シタルトキ

四 戸主タル地位ヲ去リタルトキ 但シ家督相續人ハ其族稱ヲ承繼ス

平民ノ族稱ヲ有スル者ハ左ノ場合ニ於テ其族稱ヲ失フ

一 新ニ華族ニ列セラレタルトキ

二 戸主タル地位ヲ去リタルトキ 但シ家督相續人ハ其族稱ヲ承繼ス

(五) 華族又ハ士族タル戸主カ戸主タル地位ヲ去ラスシテ其族稱ヲ失ヒタルト

キハ平民ト爲リ新ニ一家ヲ立テタル者モ亦平民ト爲ル但シ華族ニ列セラレタ

ル家族カ新ニ一家ヲ立テタルトキハ平民ト爲ラス依然トシテ華族タリ

(注意) 廢絶家ヲ再興シタル者ハ廢絶家ノ最終ノ戸主ノ有シタル華族其他ノ

族稱ヲ承繼スルコトヲ得ス分家其他ノ事由ニ因リ新ニ家ヲ立テタル場合ト

同シク平民ト爲ル

(六) 刑ノ宣告ニ因リ華族又ハ士族タル族稱ヲ失ヒタル者アルトキ刑ノ宣告ニ

因リ公權ヲ剝奪セラレタル場合ヲ謂フ前(四)参照ハ裁判所ハ其者ノ本籍地ノ戸

籍吏ニ其旨ヲ報告スルコトヲ要ス(第一六六條)

(七) 華族若クハ士族ノ族稱ヲ失ヒタルトキ但シ戸主カ其地位ヲ去リタルニ因

リ華士族ノ族稱ヲ失ヒ家督相續人カ其族稱ヲ承繼スヘキ場合又ハ前(六)ノ場合

ハ此限ニ在ラス又ハ新ニ華族ニ列セラレタルトキハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ

管廳官廳ノ辭令書又ハ許可書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 新舊族稱

二 族稱變更ノ原因

三 族稱變更ノ辭令又ハ許可アリタル年月日

前項ノ届出ハ其者カ戸主ナルトキハ其者ヨリ之ヲ爲スコトヲ要シ其者カ家族ナルトキハ戸主ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス以上第一六五條第一六六條

(注意)

(イ) 戸籍法第六十五條ニハ「華土族ノ稱ヲ失ヒタル者ハ申略之ヲ届出ツルコトヲ要ストアルカ故ニ戸主カ隠居其他ノ事由ニ因リ戸主タル地位ヲ去リタル爲メ華土族ノ稱ヲ失ヒ家督相續人カ其族稱ヲ承繼スヘキ場合ニ於テモ尙ホ本文ノ届出ヲ爲スヘキモノノ如シ然レトモ同條ニ「華土族ノ稱ヲ失ヒト謂フハ家督相續人カ其族稱ヲ承繼スヘキ場合ヲ包含セサルコトハ同法第六十六條ノ趣旨ニ徴シ明白ナリ

(ロ) 戸籍法第六十六條ニ「前條ノ規定ハ分家廢絶家再興中略ニ因リテ族稱ヲ失ヒタル者ニハ之ヲ適用セス」ト規定シアリ然レトモ戸主カ其地位ヲ去ラヌシテ分家ヲ爲シ又ハ廢絶家ヲ再興シ得ル場合ナク家族ハ華族ニ列セラレ

タルトキノ外族稱ヲ有スルコトナク華族ニ列セラレタル家族ハ分家ヲ爲シ又ハ廢絶家ヲ再興シタルトキト雖モ前(五)ニ違ヘタル如ク依然トシテ華族ノ稱ヲ保有スヘキモノナルカ故ニ結局第六十六條ノ此規定ハ贅文ニ過キス思フニ戸籍法ノ起草者ハ家族モ亦當然戸主ト同一ノ族稱ヲ有スト誤信シタル爲メ此規定ヲ設ケタルモノナルヘシ

第二十一節 身分登記變更ニ關スル申請

(第一) 總論

(一) 本節ニ於テハ身分登記變更ニ關スル申請即チ戸籍法第四章第二十一節ノ規定ヲ説明スヘシ

(二) 通常ノ用語例ニ從ヘハ變更トハ或モノヲ訂正シ又ハ増減スルヲ謂フ故ニ身分登記ノ變更トハ前ニ爲シタル身分登記ヲ訂正シ追加シ又ハ其一部ヲ抹消スル場合ノミヲ指シ其全部ヲ抹消スル場合ヲ包含セサルモノノ如シ然レトモ此ノ如ク解釋スルトキハ婚姻又ハ養子縁組ノ無效又ハ取消等ノ場合ニ在リテ

ハ原登記抹消ノ申請ニ關スル特別ノ規定アルカ故ニ差支ナシト雖モ例ヘハ尙ホ生存スル者ニ付キ死亡ノ届出アリテ其登記ヲ爲シタルトキ等ニ在リテハ別段ノ規定ナキカ故ニ其登記抹消ヲ求ムルコトヲ得サルニ至リ極メテ不都合ナル結果ヲ生スルコトト爲ル右ノ次第ナルヲ以テ予ハ戸籍法ニ所謂身分登記ノ變更トハ變更ナル文字ノ通常ノ用語例ニ異ナリ身分登記ノ訂正追加又ハ一部ノ抹消ノミナラス其全部ノ抹消ヲモ包含スルモノナリト解釋スルヲ正シト信ス第四二頁(九)参照

(三) 戸籍法第四章第二節乃至第二十節中ニハ身分登記抹消ノ申請ニ關スル規定アリ例ヘハ棄兒引取ノ場合ニ於ケル第七十六條父ヲ定ムル判決確定ノ場合ニ於ケル第七十三條第二項婚姻ノ無效若クハ取消ノ場合ニ於ケル第一百五條第百六條隱居ノ取消ノ場合ニ於ケル第二百二十二條失踪ノ宣告取消ノ場合ニ於ケル第三百三十四條家督相續人指定ノ取消ノ場合ニ於ケル第四百十三條等ノ如キ是ナリ戸籍法ニテハ之ヲ登記取消ノ申請ト謂フ要スルニ此等ノ場合ニ在リテハ戸籍法第四章第二節乃至第二十節ニ特別ノ規定アルニ因リ抹消ノ申請ヲ爲ス

ヲ要スル義務アルモノニシテ其申請ヲ爲スヘキ義務者モ亦特定セラル之ニ反シ本節ニ掲クル身分登記ノ變更ハ之ヲ求ムルト求メサルトハ其者ノ隨意ナルモノ之ヲ求メント欲スルニ於テハ本節ニ掲クル手續ニ從フコトヲ要スルニ過キス

(注意) (イ) 戸籍法ニテハ同法第四章第二節乃至第二十節ニ掲ケタル特別ノ規定ニ依ル抹消ノ申請ヲ登記取消ノ申請ト名ケ此等ノ特別ノ規定ニ依ラサル場合ニ在リテハ登記全部ノ抹消ヲ申請スル場合ト雖モ之ヲ身分登記變更ノ申請ト名ケ

登記取消ノ申請ハ戸籍法第四章第二節乃至第二十節ニ掲ケタル特別ノ規定ニ依ルコトヲ要シ同法第二十一節ノ規定ニ依ルヘキ限ニ在ラス

(ロ) 戸籍法第四章第二節乃至第二十節中身分登記變更ノ申請ニ關スル規定アリ嫡出子否認ノ裁判確定ノ場合ニ於ケル第七十九條ノ如キ是ナリ此種ノ申請ハ本節ニ掲クル申請ト其名稱ヲ同シウスト雖モ戸籍法第四章第二節乃至第二十節ニ掲ケタル特別ノ規定ニ依リ特定ノ人カ其申請ヲ爲スヲ要スル

義務ヲ負フコトハ登記取消ノ申請ニ於ケルト相同シ雖此種ノ變更ノ申請ニ付テモ亦戸籍法第二十一節ノ規定ニ依ルヘキ限ニ在ラス

(四) 既に述ヘタル如ク戸籍法實施以前ニ在リテ登記目録ニ爲シタル記載ハ身分登記ト同一ノ性質ヲ有シ登記目録ヲ設ケサリシ地方ニ於ケル戸籍ノ記載ハ身分登記ト同一ノ性質ヲ有スルモノタリ(第二七頁第三參照)故ニ戸籍法實施以前ニ爲シタル此種ノ記載ヲ變更スルニ付テモ亦戸籍法第二十一節ノ手續ニ從フコトヲ要スルモノトス

(第二) 身分登記變更ノ申請ニ關スル手續

(一) 既に爲シタル或身分登記ノ全部又ハ一部カ真正ノ事實ト異ナルトキ又ハ其登記ニ遺漏アルトキハ其登記ノ届出人又ハ登記事件ノ本人ハ次ノ(二)ノ手續ニ從ヒ其登記ノ變更ヲ申請スルコトヲ得登記事件ノ本人トハ例ヘハ生存者ニ付キ誤リテ死亡ノ登記アリタル場合ニ在リテハ死亡シタリトシテ登記セラレタル其者ヲ指ス

(イ) 戸籍吏ハ未タ登記ヲ了ラサル間ハ文字ヲ訂正シ又ハ挿入削除ヲ

爲スコトヲ妨ケス然レトモ登記ヲ了リタル後ハ登記中ニ錯誤又ハ遺漏アリテ其錯誤又ハ遺漏カ戸籍吏ノ過失等其責ニ歸スヘキ事由ニ出ラタルトキト雖モ任意ニ之ヲ訂正シ又ハ挿入削除ヲ爲スコトヲ得ス(第五九頁(四)參照)

登記ヲ爲シタル後戸籍吏カ其登記ニ付キ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ戸籍吏ハ其旨ヲ届出人又ハ届出事件ノ本人ニ通知スルコトヲ要ス而シテ此通知ハ身分登記變更ノ申請ヲ爲サシメンカ爲メニ之ヲ爲スモノトス(第七五頁第四參照)

(ロ) 何人ヨリ身分登記變更ノ申請ヲ爲スヲ得ルヤニ付テハ戸籍法ニ特別ノ明文ナシ然レトモ届出人及ヒ登記事件ノ本人ヨリ之ヲ申請スルヲ得ルコトハ戸籍法第四十條ノ趣旨ヨリ推知スルコトヲ得

(ハ) 届出人又ハ登記事件ノ本人ニアラサル者ハ次ノ(三)ノ手續ニ依ルニアラサレハ變更ノ申請ヲ爲スコトヲ得ス

(二) 既に爲シタル身分登記ノ届出人又ハ其登記事件ノ本人カ其登記ノ變更ヲ求メント欲スルトキハ原登記(其既に爲シタル登記ヲ指ス)ヲ爲シタル戸籍役場

所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス(第一六七條)

〔注意〕 此許可ヲ求ムル申立ハ非訟事件ナルカ故ニ其手續ニ付テハ非訟事件ニ關スル通則タル非訟事件手續法第一編總則ノ規定ニ從ハサルヘカラス隨テ其申立ニハ同法第九條ノ事項ヲ記載スヘク又其裁判ハ決定ノ方式ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要シ非訟事件手續法第一七條其裁判ハ之ヲ受クル者即チ届出人ト登記事件ノ本人トニ告知スルニ依リテ其效力ヲ生スルモノトス同法第一八條)

區裁判所ノ許可ノ裁判カ效力ヲ生シタルトキハ許可ヲ求メタル者ハ裁判カ效力ヲ生シタル日ヨリ一箇月内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ原登記ヲ爲シタル戸籍吏ニ登記變更ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス(第一六八條)

一 原登記ノ件名及ヒ年月日

二 變更スヘキ事項

(三) 既ニ爲シアル或身分登記ノ全部若クハ一部カ真正ノ事實ト異ナリ又ハ其登記ニ遺漏アル場合ニ於テ届出人又ハ登記事件ノ本人ニアラサル者カ其登記

ニ付キ利害ノ關係ヲ有スルトキハ其者ハ届出人又ハ登記事件ノ本人ニ對シ其登記變更ノ訴ヲ提起スルコトヲ得例ヘハ家族カ戸主ノ同意證書ヲ偽造シテ分家ノ届出ヲ爲シ戸籍吏カ之ニ因リテ身分登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其戸主カ届出人ニ對シ分家ノ登記抹消ノ訴ヲ提起スルカ如キ是ナリ

〔注意〕 此訴ニ付テハ普通ノ民事訴訟ノ手續ニ從ハサルヘカラス婚姻事件等ニ關スル民事訴訟手續法ノ如キ特別ノ規定アルコトナシ

前項ノ訴ニ於テ原告勝訴ノ判決アリテ其判決カ確定シタルトキハ其原告ハ判決カ確定シタル日ヨリ一箇月内ニ左ノ諸件ヲ具シ原登記ヲ爲シタル戸籍吏ニ登記變更ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス(第一六九條)

一 原登記ノ件名及ヒ年月日

二 變更スヘキ事項

(四) 登記取消又ハ變更ノ登記ヲ訂正シ若クハ追加セントスルトキ又ハ之ヲ削除シテ原登記ヲ回復セントスルトキモ亦前(一)(二)(三)ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第三編 戸籍

第一章 戸籍

(第二) 戸籍

(一) 戸籍トハ日本人ヲ組成シタル一戸(一家)ニ付キ其戸主及ヒ家族ノ本籍地家ニ於ケル關係、親族關係ヲ記載シタルモノニシテ戸籍簿ノ一部タルモノ(第一七〇條)云フ尙ホ第七頁(三)ヲ參照スヘシ
戸籍ハ戸籍吏ノ管轄區域内ニ本籍ヲ定メタル者ニ付キ戸籍吏之ヲ編製ス(第一七〇條)

(二) 身分登記ト戸籍トノ關係ニ付テハ第二十七頁第三ヲ參照スヘシ

(第二) 本籍

(一) 本籍ハ日本人ナルコトヲ明確ニスル爲メニ設ケタル制度ナリ故ニ日本ノ國籍ヲ有セサル者ハ日本國內ニ本籍ヲ定ムルコトヲ得ス(第一七〇條第二項)又日本ノ國籍ヲ有スル者ハ本籍ヲ定メス若クハ日本國內ニ之ヲ定ムルコトヲ得

(注意) 本籍ト家屋ノ所在地又ハ住所若クハ居所トヲ混同セサルコトヲ要ス

(二) 戸籍法實施以前ニ在リテハ本籍ヲ表示スルニ或ハ何番地ト謂ヒ或ハ何番邸ト謂ヒ或ハ何番屋敷ト謂ヒ或ハ何番戸ト謂ヒ地方ニ依リ區區ニシテ一定セザリキ然レトモ戸籍法實施以後ニ在リテハ本籍ハ地番號ヲ以テ之ヲ表示スルコトヲ要スルモノトス(第一七一條第一項)

(三) 家督相繼ニ因リテ戸主ト爲リタル者ノ本籍地ハ當然前戸主ノ本籍地ト同一ナリ但シ其者ハ他ノ地ニ其本籍ヲ轉スルコトヲ妨ケス
分家、廢絶家再興、離婚復籍、拒絶其他ノ事由ニ因リ親ニ一家ヲ立テタル者ハ任意ニ本籍地ヲ定ムルコトヲ得

(注意) 廢絶家再興ニ因リ一家ヲ立テタル者ノ本籍地ハ當然廢絶家最終ノ戸主ノ本籍地ト同一ナルニアラス

家族ノ本籍地ハ當然戸主ノ本籍地ニ從フ家族ハ戸主ノ本籍地ト異ナリタル地ニ其本籍ヲ定ムルコトヲ得ス又戸主ヲ轉籍シタルトキハ家族モ亦當然轉籍ス

(四) 轉籍ヲ爲シ又ハ新ニ本籍ヲ定ムルニハ其土地ノ所有者ノ承諾又ハ同意ヲ得ルコトヲ要セス

第二章 戸籍簿

(一) 戸籍ハ本籍地ノ地番號ノ順序ニ從ヒ戸籍吏之ヲ編綴シテ帳簿ト爲ス(第一條第一項)此帳簿ヲ戸籍簿ト謂フ

戸籍吏ノ管轄地内ニ各別ニ地番號ヲ附シタル二箇以上ノ區畫アル場合ニ於テ其區畫ノ順序ハ戸籍吏之ヲ定ム(同條第二項)

(注意) (4) 各別ニ地番號ヲ附シタル二箇以上ノ區畫アル場合トハ例ヘハ神

田區戸籍吏ノ管轄區域内ニ各別ニ地番號ヲ附シタル錦町小川町今川小路等ノ數區畫アルカ如キ是ナリ

(ロ) 本籍地カ二箇以上ノ番地ニ跨ル者アリテ其二箇以上ノ番地ノ内或番地ニ他ノ者カ本籍ヲ有スル場合ニ於テハ其二戸ノ戸籍編綴ノ順序ハ戸籍吏之ヲ定ム

(ハ) 同一番地ノ二戸以上ノ戸籍アルトキハ其編綴ノ順序ハ戸籍吏之ヲ定ム

(二) 戸籍ハ正副二本ヲ設ク

戸籍簿ノ正本ハ戸籍役場ニ備ヘ其副本ハ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ保存ス(以上第一七二條)

(三) 家督相續廢絶家其他ノ事由ニ因リ戸籍ノ全部ヲ抹消シタルモノハ之ヲ戸籍簿ヨリ除キ別ニ編綴シテ帳簿ト爲シ之ヲ戸籍役場ニ保存ス

前項ノ帳簿ヲ保存スヘキ期間ハ司法大臣命令ヲ以テ之ヲ定ム(以上第一七三條)

(四) 戸籍ヲ改製スヘキ時期ハ各地又ハ一般ニ付キ司法大臣命令ヲ以テ之ヲ定ム

司法大臣カ前項ノ時期ヲ定メサル間ハ從來ノ戸籍簿ハ前(一)ノ順序ニ從ヒ之ヲ改綴スルコトヲ要セス然レトモ戸籍法實施後新ニ戸籍簿ヲ編綴スル場合ニ在リテハ前(一)ノ順序ニ從フヲ要ス(以上第二二一條)

(五) 戸籍簿ハ事變ヲ避クル爲メニスル場合ヲ除ク外之ヲ戸籍役場外ニ持出ス

コトヲ得ス(第七十四條ニ依リテ第十二條準用)

(六) 戸籍簿ノ閲覧又ハ戸籍ノ謄本若クハ抄本ノ交付ニ關シテハ身分登記簿ノ閲覧又ハ身分登記ノ謄本若クハ抄本ノ交付ニ關スル戸籍法第十三條ノ規定ヲ準用スベキモノトス(第一七四條)

(注意) 戸籍法第十三條ノ規定ニ付テハ第三頁第六ヲ參照スヘシ

(七) 戸籍簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルトキハ司法大臣ハ其旨ヲ告示シ且ツ戸籍簿ノ再製又ハ補充ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ要ス(第七十四條ニ依リテ第十四條準用)

第三章 戸籍ノ記載手續

(第一) 通則

(一) 戸籍ハ一戸毎ニ一本ヲ作ル(第一七五條)

(二) 戸籍ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス(第一七六條)

一 戸主前戸主及ヒ家族ノ氏名

二 戸主ノ族稱及ヒ本籍地但家族カ族稱ヲ有スル場合ニ於テハ家族ニ付テ

モ其族稱ヲ記載スルコトヲ要ス

三 戸主及ヒ家族ノ出生ノ年月日

四 戸主又ハ家族ト爲リタル原因及ヒ年月日但出生ニ因リテ家族ト爲リタル者ニ付テハ此記載ヲ要セス

五 戸主並ニ家族ノ父母ノ氏名及ヒ其父母ト戸主又ハ家族トノ續柄

六 戸主ト前戸主トノ續柄及ヒ家族ト戸主トノ續柄但家族ノ他家ヨリ入リテ他ノ家族ノ配偶者ト爲リタル者又ハ他ノ家族ヲ經テ戸主トノ親族關係ヲ有スル者ニ付テハ其者ト戸主トノ續柄ノ外他ノ家族トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

(注意) 他ノ家族ヲ經テ戸主トノ親族關係ヲ有スル者トハ他ノ家族ノ養子ト爲リタル爲メ戸主ノ親族ト爲リタル者ノ如キヲ謂フ

七 他家ヨリ入リテ戸主又ハ家族ト爲リタル者ニ付テハ其原籍地原籍ノ戸主ノ氏名族稱及ヒ其戸主ト戸主又ハ家族ト爲リタル者トノ續柄

八 他家ヨリ入りテ家族ト爲リタル者ニシテ他ノ家族トノミ親族關係ヲ有

スル者ニ付テハ其者ト他ノ家族トノ續柄

(注意) 戸主ノ妻ノ四親等以上ノ血族ニシテ民法第七百三十八條ノ規定ニ

依リ家族ト爲リタル者ノ如キヲ謂フ

九 戸主又ハ家族ノ身分ノ變更及ヒ其原因並ニ年月日

十 後見人アル者ニ付テハ後見人ノ氏名住所及ヒ後見人ノ就職並ニ任務終

了ノ年月日

(三) 戸主及ヒ家族ノ氏名ヲ戸籍ニ記載スルニハ左ノ順序ニ依ル(第一七七條)

第一 戸主

第二 戸主ノ直系尊屬

第三 戸主ノ配偶者

第四 戸主ノ直系卑屬及ヒ其配偶者

第五 戸主ノ傍系親及ヒ其配偶者

第六 戸主ノ親族ニ非サル者

系直系尊屬ノ間ニ在リテハ親等ノ遠キ者ヲ先ニシ直系卑屬又ハ傍系親ノ間ニ在
リテハ親等ノ近キ者ヲ先ニス

直系尊屬直系卑屬又ハ傍系親ノ間ニ在リテ親等ノ同シキ者ハ親族間ノ順位ニ
依リ親族間ノ順位ノ同シキ者ハ出生ノ前後ニ依リテ其順位ヲ定ム

前第二項第三項ハ戸主ノ親族ニ非サル者ノ記載ニ之ヲ準用スヘキモノトス

(注意) (イ) 直系尊屬直系卑屬傍系親ハ血族ト姻族トヲ含ム

(ロ) 第三項ニ親族間ノ順位トアルハ社交上ニ於ケル尊卑ノ順序ヲ謂フ(佐賀
地方裁判所長問合ニ對スル明治三十二年十二月十四日付民刑局長回答參照)

故ニ例ヘハ戸主ノ父ト戸主ノ配偶者ノ父トノ間ニ在リテハ等シク尊屬ノ一
等親ナルモ第三項ニ依リ戸主ノ父ハ戸主ノ配偶者ノ父ヨリモ先ニ之ヲ記載
スルコトヲ要ス

(ハ) 戸主ノ直系卑屬ノ配偶者及ヒ戸主ノ傍系親ノ配偶者ハ戸主ノ親族ナル
コトアリ戸主ノ親族ニアラサルコトアリ例ヘハ戸主ノ三親等以内ノ直系卑
屬タル血族ノ配偶者又ハ三親等以内ノ傍系親タル血族ノ配偶者ハ戸主ノ三

親等以内ノ姻族ナルカ故ニ戸主ノ親族ナルモ戸主ノ四親等以外ノ直系卑屬タル血族ノ配偶者又ハ四親等以外ノ傍系親タル血族ノ配偶者ハ戸主ノ四親等以外ノ姻族ナルカ故ニ戸主ノ親族ニアラス(民法第七二五條)

戸主ノ直系卑屬ノ配偶者又ハ戸主ノ傍系親ノ配偶者ハ戸主ノ親族ニアラサルトキト雖モ第一項第六號ノ順位ニ依ラス第一項第四號又ハ同項第五號ノ順位ニ依リ之ヲ記載スルコトヲ要ス

次ニ戸主ノ直系卑屬ト其配偶者トノ間(第一項第四號ニ在リテハ兩者ヲ同順位ニ置ク)又ハ戸主ノ傍系親ト其配偶者トノ間(第一項第五號ニ在リテハ兩者ヲ同順位ニ置ク)ニ在リテハ夫ハ妻ヨリモ親族間ノ順位優ルカ故ニ第三項ニ依リ夫ヲ妻ヨリモ先ニ記載スルコトヲ要スルモノトス

(四) 戸籍吏カ戸籍ニ關スル届出(次ノ第四章參照)ヲ受理シタルトキハ其書類ニ受附ノ番號及ヒ年月日ヲ記載シ遲滞ナク登記ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス第百九十一條ニ依リテ第十八條準用)

戸籍吏カ身分登記ヲ爲シタルトキ又ハ戸籍ニ關スル届出ヲ受理シタルト

キハ本節(第一)及ヒ(第二)ニ説明スル手續ニ從ヒ戸籍ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス(第二七八條)

(注意) 戸籍ハ本籍地ノ戸籍吏之ヲ作ルヘキモノナリ(第一七〇條)隨テ本籍ニ關係ナキ地ノ戸籍吏カ身分登記ヲ爲シタルトキノ如キハ其戸籍吏ハ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ限ニ在ラス故ニ例ヘハ甲地ニ本籍ヲ有スル者カ嫡出子ヲ出生シタル場合ニ於テ乙地ノ戸籍吏ニ出生ノ届出ヲ爲シ乙地ノ戸籍吏カ出生ノ身分登記ヲ爲シタルトキト雖モ其戸籍吏ハ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキニアラス乙地ノ戸籍吏ヨリ其届書ノ送付ヲ受ケタル甲地即チ本籍地ノ戸籍吏カ出生ノ身分登記ヲ爲シタル後其戸籍吏カ戸籍ノ記載ヲ爲セハ足ル

(六) 戸籍ノ記載ヲ爲スニハ略字又ハ符號ヲ用ヒス字畫明瞭ナルコトヲ要ス年月日時及ヒ年齢ヲ記スル數字ニハ一二三十ノ字ヲ用ヒシテ壹貳叁拾ノ字ヲ用フルコトヲ要ス

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ戸籍吏之ニ認印シ其削除ニ係

ル文字ハ尙ホ明カニ讀ミ得ヘキ爲メ字體ヲ存スルコトヲ要ス以上第百九十一條ニ依リテ第二十九條準用)

(七) 戸籍吏ハ戸籍ノ記載ヲ爲シタル毎ニ其文末ニ認印スルコトヲ要ス(第百九十一條ニ依リテ第三十一條準用)

(八) 戸籍用紙中ノ一部分ヲ用ヒ盡シタルトキハ掛紙ヲ以テ用紙ニ充ツルコトヲ得

掛紙ヲ爲シタルトキハ戸籍吏ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス以上第一九二條

(注意) 戸籍用紙中ノ一部分ヲ用ヒ盡シタルトキトハ一ノ戸籍中ニ記載シア
ル或一人ニ付キ記載事項多クシテ其事項欄ニ餘白ナキトキノ如キヲ謂フ
(九) 戸主及ヒ家族ヲ戸籍ニ記載スル順序ハ既ニ前(三)ニ之ヲ説明シタリ(第百七十七條ニ規定シタル順序然レトモ一旦戸籍ヲ編製シタル後ニ至リ出生婚姻養子縁組民法第七百三十七條ノ規定ニ依ル親族入籍其他ノ事由ニ因リ一人又ハ數人ヲ新ニ其戸籍ニ入ルヘキトキハ前(三)ニ掲ケタル順序ニ拘ラズ其戸籍ノ末

尾ニ之ヲ記載スレハ足ル第一八六條但シ同時ニ數人ヲ戸籍ニ入ルヘキ場合ニ於テ其數人間ニ在リテハ前(三)ニ掲ケタル順序ニ從ハサルヘカラス

例 戸籍ニ戸主ト其弟トノ記載アル場合ニ於テ戸主カ夫婦養子ヲ爲シタルトキハ養子ト爲リタル夫婦ハ戸主ノ弟ノ次ニ之ヲ記載スレハ足ル(前(三)ニ掲

ケタル順序ニ依ルトキハ第一ニ戸主第二ニ養子ト爲リタル夫婦第三ニ養子ト爲リタル妻第四ニ戸主ノ弟ヲ記載セサルヘカラス然レトモ養子ト爲リタル

夫ハ養子ト爲リタル妻ヨリモ先ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス
(十) 廢家絶家其他ノ事由ニ因リ一戸ノ全員ヲ戸籍ヨリ除クヘキトキハ其事由

ヲ戸籍ニ記載シテ其戸籍ノ全部ヲ抹消スルコトヲ要ス
(注意) 戸籍ノ全部ヲ抹消シタルトキハ前章ニ説明シタル如ク其戸籍ヲ戸籍

簿ヨリ除キ戸籍法第百七十三條ノ手續ヲ爲ササルヘカラス
死亡離婚離籍分家其他ノ事由ニ因リ一戸内ノ一員又ハ數人ヲ戸籍ヨリ除クヘ

キトキハ其事由ヲ戸籍ニ記載シテ戸籍中其者ニ關スル部分ヲ抹消スルコトヲ要ス以上第一八七條

〔注意〕

婚姻離婚其他ノ事由ニ因リ甲家ヨリ乙家ニ入ルヘキ場合ニ在リテハ乙家ノ戸籍ニ其者ヲ記載シ甲家ノ戸籍中其者ニ關スル部分ヲ抹消スヘキモノナリ

(土) 婚姻離婚養子縁組轉籍其他ノ事由ニ因リ一人又ハ數人ヲ戸籍ニ入ルヘキ場合ニ於テ入籍ヲ爲スヘキ者ノ本籍カ一ノ戸籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戸籍吏ノ管轄ニ轉屬スルモノナルトキ(例ヘハ甲戸籍吏ノ管轄ニ屬スル家ノ女子力離婚ニ因リ乙戸籍吏ノ管轄ニ屬スル家ニ復歸スルトキノ如シ)ハ新管轄ノ戸籍吏ハ其者ヲ當該戸籍ニ記入シタル後身分ニ關スル届書其他ノ書類又ハ戸籍ニ關スル届書ヲ送付スルト同時ニ入籍ヲ爲シタル旨ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ通知スルコトヲ要ス

然レトモ例ヘハ舊管轄ノ戸籍吏ニ離婚ノ届出ヲ爲シタル場合ノ如キニ在リテハ舊管轄ノ戸籍吏ヨリ新管轄ノ戸籍吏ニ届書ヲ送付スルコトヲ要シ新管轄ノ戸籍吏ヨリ舊管轄ノ戸籍吏ニ届書ヲ送付スヘキニアラサル第三三條參照力故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ届書ノ送付ヲ受ケタル新管轄ノ戸籍吏ハ當該戸籍ニ

記入シタル後單ニ入籍ヲ爲シタル旨ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ通知スレハ足ル以上第一八八條)

(三) 婚姻離婚養子縁組轉籍其他ノ事由ニ因リ一人又ハ數人ヲ戸籍ヨリ除クヘキ場合ニ於テ除籍ヲ爲スヘキ者ノ本籍カ一ノ戸籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戸籍吏ノ管轄ニ轉屬スルモノナルトキハ舊管轄ノ戸籍吏ハ新管轄ノ戸籍吏ヨリ入籍ヲ爲シタル旨ノ通知ヲ受ケタル後(前土)參照其通知ノ發送及ヒ受附ノ年月日ヲ戸籍ニ記載シテ前(土)ニ掲ケタル除籍ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

(注意) (4) 舊管轄ノ戸籍吏ハ新管轄ノ戸籍吏ヨリ入籍ノ手續ヲ爲シタル旨ノ通知ヲ受ケタル後ニアラサレハ除籍ノ手續ヲ爲スコトヲ得ス故ニ例ヘハ舊管轄ノ戸籍吏ニ離婚ノ届出ヲ爲シタル場合ニ在リテハ舊管轄ノ戸籍吏ハ身分登記ヲ爲シタル後遲滞ナク其届書ヲ新管轄ノ戸籍吏ニ送付シ新管轄ノ戸籍吏ヨリ入籍ヲ爲シタル旨ノ通知ヲ受ケタル後始メテ除籍ノ手續ヲ爲ス

(ロ) 入籍ノ手續ヲ先ニシ除籍ノ手續ヲ後ニスルハ一日モ無籍者ナカラン

「轉籍」ニ因リテ除籍ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外轉籍地及
ヒ轉籍ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス(以上第一八九條)

(三) 一ノ戸籍吏ノ管轄地内ニ於テ婚姻離婚其他ノ事由ニ因リ一ノ家ヨリ他ノ
家ニ入リタル爲メ本籍ニ變更アル場合ニ於テハ戸籍吏ハ前(七)及ヒ(三)ニ述ヘタ
ル場合ト異ナリ前(九)及ヒ(十)ニ述ヘタル入籍及ヒ除籍ノ手續ヲ爲セハ足ル
一ノ戸籍吏ノ管轄地内ニ於テ本籍地變更ノ届出アリタル場合ニ付テハ次ノ(第
二)(七)ヲ参照スヘシ

(七) 身分登記又ハ戸籍ニ關スル届出ニ基キテ戸籍ノ記載ヲ爲ス場合ニ於テハ
本節ニ掲ケタル事項ノ外身分ニ關スル届書其他ノ書類又ハ戸籍ニ關スル届書ノ
受附年月日ヲモ記載スルコトヲ要ス(第一九〇條)

(五) 行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキ(例ヘハ甲村ヲ乙村ニ
合併シタルトキ)如シハ戸籍ニ記載シアル區畫、名稱又ハ番號ハ當然之ヲ改正
シタルモノト看做ス(第一九三條故ニ別段ニ其改正ノ手續ヲ爲スコトヲ要セ

ス) (六) 戸籍吏カ身分登記ヲ爲シタルトキ又ハ戸籍ニ關スル届出ヲ受理シタルト
キハ其身分登記又ハ其戸籍ニ關スル届出ニ基キ戸籍ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス
隨テ其身分登記又ハ其戸籍ニ關スル届出ニ錯誤又ハ遺漏アリタルトキト雖モ
尚ホ之ニ基キ戸籍ノ記載ヲ爲ササルヘカラス

然レトモ戸籍吏カ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後其記載中ニ錯誤又ハ遺漏アリテ基
本タル身分登記又ハ戸籍ニ關スル届出ト符合セサルコトヲ發見シタルトキハ
裁判所ノ許可其他別段ノ手續ニ要セスシテ戸籍吏限リ之ヲ訂正シ又ハ追加ス
ルコトヲ得何トナレハ戸籍ノ記載ノ變更ニ關スル戸籍法第十七條第四十條、第
百六十七條乃至第百六十九條ノ如キ規定ナクレハナリ

(第二) 特別

(一) 次ノ(二)以下ニ於テ戸籍吏カ或特種ノ身分登記ヲ爲シ又ハ戸籍ニ關スル或
特種ノ届出ヲ受理シタル場合ニ於テ戸籍ノ記載ヲ爲スニ付キ前第一(一)ニ掲ケタ
ル手續ノ外尙ホ遵守スヘキ特別ノ手續ヲ説明スヘシ

(二) 家督相續ノ登記又ハ家督相續回復ノ登記前第二編第四章第十三節參照ヲ爲シタルトキハ其登記及ヒ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ基キテ新戸主ノ戸籍ヲ編製スルコトヲ要ス(第一七九條第一項)而シテ其戸籍ヲ編製シタルトキハ地番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ戸籍簿ニ編綴セサルヘカラス(第一七一條)

前項ノ場合ニ於テハ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ其事由ヲ記載シテ其戸籍全部ヲ抹消シ之ヲ戸籍簿ヨリ除キ且ツ其戸籍ト新戸主ノ戸籍トニ戸籍吏ノ職印ヲ以テ契印ヲ爲スコトヲ要ス(第一七九條第二項第一七三條)

(注意) (イ) 前戸主トハ家督相續ノ登記ノ場合ニ於ケル被相續人ヲ指シ戸主ノ名義ヲ有セシ者トハ家督相續回復ノ登記ノ場合ニ於ケル相續權ナクシテ家督相續ノ登記ヲ受ケタル者ヲ指ス

(ロ) 家督相續又ハ家督相續回復ノ登記ヲ爲シタルトキハ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍中其者ニ關スル部分ヲ抹消シ之ニ新戸主ヲ記入スルニアラス又其戸籍ノ全部ヲ抹消シ新ニ新戸主ノ戸籍ヲ作り前第一(一)ニ從

ヒ之ニ新戸主及ヒ其家族ヲ記載スルモノトス要スルニ戸籍ハ戸主ヲ變更スル毎ニ改製スヘキモノナリ

新戸主ノ戸籍ニハ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍中既ニ抹消セラレタル部分ハ之ヲ轉載スヘキ限ニ在ラス故ニ例ヘハ家督相續ノ登記前既ニ死亡ニ因リ除籍セラレタル家族ニ關スル記載ノ如キハ之ヲ新戸主ノ戸籍ニ轉載スヘカラス

胎兒カ家督相續人ナル場合ニ於テハ其出生ニ至ルマテ前二項ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス此場合ニ於テハ前戸主ノ戸籍中戸主ニ關スル部分ノミヲ抹消シ家督相續人ノ胎兒ナル旨ヲ記載スルコトヲ要ス(第一七九條第三項)

(注意) 胎兒ハ家督相續ニ付テハ既ニ生レタルモノト看做サルト雖モ若シ死體ニテ分娩スルトキハ利ヨリ家督相續ヲ爲サザリシコト爲ル(民法第九六八條)此ノ如ク胎兒ノ家督相續ハ其胎兒カ生命ヲ保有シテ生ルルト否トニ因リ影響ヲ受クヘキ不確定ノモノナルカ故ニ生命ヲ保有シテ生ルルト待テテ新戸籍編製ノ手續ヲ爲サシム

胎児カ死體ニテ分娩シタルトキハ其胎児ノ新戸籍ヲ編製スヘキ限ニ在ラス
(三) 分家廢絶家再興離籍其他新ニ家ヲ立ツヘキ事件ノ登記前第二編第四章第
二節第十六節乃至第十九節參照ヲ爲シ又ハ轉籍若クハ無籍戸主ノ就籍ノ届出
ヲ受理シタルトキ(次ノ第四章參照)ハ其登記又ハ届出ニ基キテ戸籍ヲ編製シ轉
籍届書ノ副本ハ遲滞ナク之ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス
右ノ場合ニ於テ戸籍ヲ編製スルニハ前第一(二)ニ掲ケタル事項ノ外各場合ニ
付キ特殊ナル事項ヲ記載スルコトヲ要ス以上第一八〇條

(注意) (イ) 舊管轄ノ戸籍吏カ轉籍届書ノ副本ノ送付ヲ受ケタルトキハ前第

一(十)及ヒ(三)ニ掲ケタル除籍ノ手續ヲ爲ササルヘカラス

(ロ) 各場合ニ付キ特殊ナル事項トハ例ヘハ廢絶家再興ノ場合ニ在リテハ其
旨及ヒ廢絶家ノ最終ノ戸主ノ氏名其者ト再興者トノ續柄ヲ記載シ離籍ノ場
合ニ在リテハ其旨及ヒ離籍ヲ爲シタル者ノ本籍地族稱氏名其者ト離籍ニ因
リ一家ヲ創立シタル者トノ續柄ヲ記載スル如キヲ謂フ

(四) 復籍拒絕ノ登記前第二編第四章第十六節參照ヲ爲シタルトキハ復籍ヲ拒

絶シタル者ノ戸籍ニ其登記ノ要旨ヲ記載スルコトヲ要ス(第一八一條)

(五) 廢家又ハ絶家ノ登記前第二編第四章第十七節參照ヲ爲シタルトキハ最終
戸主ノ戸籍ニ其事由ヲ記載シテ其戸籍ノ全部ヲ抹消スルコトヲ要ス(第一八二
條)而シテ其抹消シタル戸籍ハ戸籍簿ヨリ之ヲ除カサルヘカラス

(六) 絶家ノ家族ハ民法第七百六十四條ニ依リ一家ヲ創立スヘク一家ヲ創立シ
タル者ハ戸籍法第五十三條ニ依リ絶家及ヒ一家創立ノ届出ヲ爲スコトヲ要
ス而シテ此届出アルトキハ戸籍吏ハ絶家ノ登記ヲ爲スカ故ニ絶家ニ家族アル
場合ニ於テハ前(五)ニ掲ケタル手續ニ從ヒ最終戸主ノ戸籍ヲ抹消スヘキモノト
ス

之ニ反シテ單身戸主家ニ戸主ノミニシテ家族ナキトキヲ謂フノ死亡又ハ失踪
ニ因ル絶家ノ場合ニ在リテハ家族ナキカ故ニ絶家及ヒ一家創立ノ届出ヲ爲スヘ
キ者ナク隨テ絶家ノ登記ヲ爲シ得ヘキニアラサルヲ以テ前(五)ニ依リ最終戸主
ノ戸籍ヲ抹消スルニ由ナシ故ニ戸籍法ハ第八十三條ニ特別ノ規定ヲ設ケ單
身戸主ノ死亡又ハ失踪ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其家ニ家督相續人ナキコ

ト分明ナルトキハ戸籍吏ハ戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得
テ死亡者又ハ失踪者ノ戸籍ニ絶家ノ原因及ヒ絶家ノ年月日ヲ記載シテ其戸籍
ヲ抹消スルヲ要スルコトトセリ

(注意) (イ) 家督相續人ナキコト分明ナルトキハ民法第千五十二條以下ノ
手續ヲ終ヘ家督相續人ナキコト確定スルニ至リタルトキヲ謂フ

(ロ) 戸籍吏カ戸籍法第百八十三條ノ規定ニ從ヒ戸籍ヲ抹消スル場合ニ在リ
テハ絶家ノ身分登記ヲ爲スヘキ限ニ在ラス

(ハ) 戸籍吏カ區裁判所ノ許可ヲ求ムル手續及ヒ區裁判所ノ許可ノ方式ニ付
テハ別段ノ規定ナシ

(七) 戸籍吏ノ管轄地内ニ於ケル本籍地變更ノ届出ヲ受理シタルトキ(次ノ第四
章参照)ハ事由ヲ戸籍ニ記載シ舊本籍地ニ關スル記載ノミヲ抹消シ新本籍地ヲ
記載スルコトヲ要ス(第一八四條此場合ニ在リテハ單ニ本籍地ニ變更アル止
マルカ故ニ戸籍ヲ改製スルコトヲ要セス本籍地ニ關スル記載ノミヲ改正スル
ハ足ル)

(注意) (イ) 本籍地ノ變更トハ甲村乙字ノ某番地ヨリ甲村丙字ノ某番地ニ轉
籍シタルトキノ如キヲ謂フ

(ロ) 一ノ戸籍吏ノ管轄地ヨリ他ノ戸籍吏ノ管轄地ニ轉籍シタル場合ニ付テ
ハ前第一ノ(七)及ヒ(七)ヲ参照スヘシ

(ハ) 前(二)乃至(七)ニ掲ケタル場合ヲ除ク外身分登記ヲ爲シ又ハ戸籍ニ關スル届
出ヲ受理シタルトキハ戸籍吏ハ其登記又ハ届出ニ基キ前第一ノ(二)ニ掲ケタル
事項ヲ戸籍ニ記載スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ戸籍法第百八十條第二項ノ規定前(三)ノ第二項参照ニ依リテ
戸籍ニ記載シタル事項ノ變更アルトキハ其變更ヲ記載スルコトヲ要ス以上第
一八五條

(注意) 戸籍法第百八十條第二項ノ規定ニ依リテ戸籍ニ記載シタル事項ノ變
更アルトキトハ例ヘハ分家ノ登記ヲ爲シ之ニ基キ分家ヲ爲シタル者ノ戸籍
ヲ編製シ其戸籍ニ戸籍法第百八十條第二項ニ依リ本家ノ戸主ノ本籍地族稱
氏名ヲ記載シタル場合ニ於テ其基本タル分家ノ身分登記中本家ノ戸主ノ氏

名又ハ族稱ニ錯誤アリテ身分登記變更ノ登記ヲ爲シタルトキノ如シ場合ニ在リテハ其身分登記變更ノ登記ニ基キ分家ヲ爲シタル者ノ戸籍ニ於ケル記載中本家ノ戸主ノ氏名又ハ族稱ヲ訂正セサルヘカラス(九)前(二)及ヒ(三)ノ場合ニ於テ戸籍ヲ編製シタルトキハ戸籍吏ハ遲滞ナク其戸籍ノ副本ヲ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ送付スルコトヲ要ス(第一九四條)

(注意) (イ) 前第二章ニ説明シタル如ク監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所

ハ戸籍簿ノ副本ヲ保存スヘキモノナルカ故ナリ(第一七二條)

(ロ) 婚姻死亡轉籍其他ノ事由ニ因リテ戸籍ニ記入ヲ爲シ又ハ戸籍ノ全部若クハ一部ヲ抹消シタルトキハ其加除ヲ爲シタル旨ヲ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ報告スルコトヲ要セス蓋シ別段ノ規定ナキカ故ナリ

第四章 戸籍ニ關スル届出

第一節 通則

(第一) 緒言

(一) 既ニ前章ニ於テ説明シタル如ク戸籍吏ハ身分登記ヲ爲シタルトキ戸籍ニ關スル届出ヲ受理シタルトキ又ハ前章第二(六)ノ場合ニ於テ戸籍ノ記載ヲ爲スコトヲ要スルモノトス

(二) 戸籍ニ關スル届出トハ身分登記ニ關係ナクシテ戸籍ニノミ關係アル届出ヲ謂フ出生其他前編第四章ニ説明シタル届出ハ身分ニ關スル届出ニシテ戸籍吏之ニ因リテ身分登記ヲ爲シ然ル後其登記ニ基キ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキモノタリ之ニ反シテ戸籍ニ關スル届出ハ單ニ戸籍ニノミ關スルモノナルカ故ニ戸籍吏ハ之ニ基キ戸籍ノ記載ヲ爲セハ足ル隨テ身分登記簿ニ其事項ヲ登記スヘキ限ニ在ラス

(三) 戸籍ニ關スル届出ニ三種アリ轉籍ノ届出就籍ノ届出及ヒ除籍ノ届出是ナリ次ノ(第二)ニ於テ此三種ノ届出ニ通スル手續ヲ説明シ第二節及ヒ第三節ニ至リ各種ノ届出ニ關スル特別ノ手續ヲ説明スヘシ

(第二) 通則

戸籍法 戸籍ニ關スル届出

(一) 戸籍ニ關スル屆出ヲ爲スヘキ者ハ後ノ二節ニ説明スル如ク戸籍法ニ於テ之ヲ限定セリ而シテ轉籍ノ屆出ハ屆出人任意ニ之ヲ爲スコトヲ得ヘク就籍及ヒ除籍ノ屆出ハ戸籍法上ノ義務トシテ之ヲ届出ツルコトヲ要スルモノトス然レトモ戸籍法上ノ義務トシテ届出ヲ爲スヘキ場合ニ於テ届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届出義務者トス隨テ此等ノ場合ニ在リテハ未成年者又ハ禁治產者ヨリ届出ヲ爲スヘキ限ニ在ラス(第二百二條ニ依リ第四十六條第一項準用)

(二) 戸籍ニ關スル屆出ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ正當ノ事由アルトキハ屆出人ハ戸籍吏ニ其理由ヲ陳述シ口頭ニテ届出ヲ爲スコトヲ妨ケス(第二百二條ニ依リ第四十三條準用)

(三) 戸籍ニ關スル屆書ニハ左ノ事項ヲ記載シ届出人之人ニ署名捺印スルコトヲ要ス(第二百二條ニ依リ第四十四條準用)

一 届出事件

二 届出ノ年月日

第三 届出人ノ族稱職業出生ノ年月日及ヒ本籍地
届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治產者ナル場合ニ於テ届出義務者タル親權ヲ行フ者又ハ後見人ヨリ届出ヲ爲ストキハ其屆書ニ左ノ事項ヲモ記載スルコトヲ要ス(第二百二條ニ依リ第四十六條第二項準用)

一 届出ヲ爲スヘキ未成年者又ハ禁治產者ノ氏名族稱出生ノ年月日及ヒ本

籍地

二 届出ヲ爲スヘキ者ノ無能力ノ原因

三 届出人カ親權ヲ行フ者又ハ後見人タルコト

届出人又ハ届出事件ノ本人カ本籍地外ニ在ルトキハ屆書ニ其所在地ヲモ記載スルコトヲ要ス(第二百二條ニ依リ第四十九條準用)

屆書ニ記載スルコトヲ要スル事項中其事實ノ存セサルモノ又ハ知レサルモノアルトキハ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス但シ戸籍吏ハ各届出事件ニ付キ特ニ重要ト認ムル事項ヲ記載セサル屆書ヲ受理スルコトヲ得ス(第二百二條ニ依リ第五十條準用)

届書ニハ戸籍法其他ノ法令ニ定メタル事項ニ非サレハ之ヲ記載スルコトヲ得
 (第二百二條ニ依リ第五十一條準用)

届書ニハ略字又ハ符號ヲ用ヒス字畫明瞭ナルコトヲ要シ年月日時及ヒ年齡ヲ
 記スル數字ニハ一二三ノ字ヲ用ヒスシテ壹貳叁拾ノ字ヲ用フルコトヲ要ス
 次ニ届書ノ文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正挿入又ハ削除ヲ爲シタル
 トキハ其字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ届出人ノ之ニ認印シ
 其削除ニ係ル文字ハ尙ホ明カニ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存スルコトヲ要ス(第二百
 二條ニ依リ第五十二條第二十九條準用)

届書ニハ届出人ノ署名捺印ヲ要スト雖モ其者カ印ヲ有セザルトキハ署名スル
 ヲ以テ足リ署名スルコト能ハサルトキハ名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル
 若シ署名スルコト能ハス且ツ印ヲ有セザルトキハ名ヲ代署セシメ捺印スルヲ
 以テ足ル但シ捺印セス又ハ名ヲ代署セシメ若クハ捺印シタル場合ニ於テハ届
 書ニ其事由ヲ附記スルコトヲ要ス(第二一八條)
 (四) 口頭ヲ以テ戸籍ニ關スル届出ヲ爲スニハ届出人ハ戸籍吏ノ面前ニ出頭シ

其届出事件ヲ陳述シ戸籍吏ハ直チニ其口述並ニ届出ノ年月日届出人ノ氏名出
 生ノ年月日職業及ヒ本籍地ヲ筆記シ之ヲ届出人ニ讀聞カセ且ツ届出人ヲシテ
 之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス但シ届出人カ疾病其他ノ事故ニ因リ自ラ戸
 籍吏ノ面前ニ出頭スルコト能ハザルトキハ代理人ヲ差出スコトヲ得(第二百二
 條ニ依リ第五十四條第五十八條準用)

右ノ場合ニ於テ戸籍吏カ作ルヘキ書面ニハ届書ニ關スル規定ヲ準用ス(第二百
 二條ニ依リ第五十五條準用)

(五) 戸籍法上ノ義務トシテ爲スヘキ届出ニハ戸籍法ニ其届出期間ノ定アリ而
 シテ其期間ハ裁判確定ノ日ヨリ之ヲ起算ス但シ届出義務者カ裁判ノ送達又ハ
 交付ヲ受タル前裁判カ確定シタルトキハ其送達又ハ交付ヲ受ケタル日ヨリ之
 ヲ起算ス(第二百二條ニ依リ第六十二條準用)

(六) 届出義務者カ戸籍法ニ定メタル期間内ニ戸籍ニ關スル届出ヲ爲スコトヲ
 怠リタルトキハ戸籍法第二百十條ニ依リ過料ニ處セラル

右ノ場合ニ於テ裁判所カ過料ニ處シタルトキハ其裁判所ハ遲滞ナク其者カ届

出ヲ爲スヘキ地ノ戸籍吏ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス但シ戸籍吏ヨリ既に届出

ヲ受理シタル旨ノ通知アリタルトキハ此限ニ在ラス

戸籍吏カ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ届出義務者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ其

期間内ニ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

届出義務者カ前項ノ期間内ニ届出ヲ爲ササルトキハ戸籍吏ハ更ニ相當ノ期間

ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ要ス爾後届出義務者カ戸籍吏ノ催告ニ應ゼサルト

キ亦同シ(第二項以下第二百二條ニ依リ第六十三條準用)

戸籍吏カ期間ヲ定メテ催告ヲ爲シタル場合ニ於テ尙ホ其届出ヲ怠リタル者ハ

戸籍法第二百十一條ニ依リ過料ニ處セラレ

戸籍吏ハ其管轄内ニ戸籍法ニ定メアル期間内又ハ戸籍吏ノ定メタル期間内ニ

届出ヲ爲ササル者アルコトヲ知リタルトキハ遅滞ナク之ヲ過料ノ裁判ノ管轄

裁判所ニ通知スルコトヲ要ス(第二百二條ニ依リ第六十四條準用)

過料ノ裁判ノ管轄裁判所ハ過料ニ處セラルヘキ者ノ住所又ハ居所ノ地ヲ管轄

スル區裁判所ナリ(第二一四條)

(七) 戸籍法ニ定メアル期間又ハ戸籍吏ノ定メタル期間ヲ經過シタル後ニ届出

義務者カ届出ヲ爲シタル場合ト雖モ戸籍吏ハ其届出ヲ受理スルコトヲ要ス(第

二百二條ニ依リ第六十五條準用)

(八) 何レノ場合タルヲ問ハス戸籍吏カ戸籍ニ關スル届出ヲ受理シタルトキハ

届出人ハ手数料ヲ納付シテ届出受理ノ證明書ヲ請求スルコトヲ得(第二百二條

ニ依リ第六十六條準用)

(九) 戸籍吏カ戸籍ニ關スル届出ヲ受理セサルトキハ其不受理ノ處分ニ對シ其

戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得(第二〇三條尙ホ

抗告ニ關シテハ前第一編第三章ヲ參照スヘシ)

(十) 戸籍ニ關スル届書ハ身分登記ニ關スルモノニアラサルカ故ニ此等ノ書類

ニ付テハ戸籍法第三十八條ノ手續ヲ爲スヘキ限ニ在ラス

第二節 轉籍ニ關スル届出

(第一) 總論

戸籍法 戸籍ニ關スル届出

- (一) 戸籍法ニ轉籍ト謂フハ婚姻養子縁組離籍其他ノ事由ニ因リ一ノ家ヲ去リテ他ノ家ニ入リタル爲メ本籍ニ變更ヲ生シタル場合ヲ指スニアラス其屬スル家ニ變更ナク單ニ本籍ヲ甲地ヨリ乙地ニ轉スル場合ノミヲ指ス例ハハ神奈川縣横濱市某町某番地ニ本籍ヲ有スル者カ本籍ヲ東京市麹町區某町某番地ニ移ストキノ如キ是ナリ
- (二) 家族ハ其戸主ト本籍地ヲ同シウスヘキモノタリ故ニ戸主ハ轉籍ヲ爲スヲ得レトモ家族ハ轉籍ヲ爲スコトヲ得ス而シテ戸主カ轉籍ヲ爲シタルトキハ家族ノ本籍ハ當然之ニ從フ
- (三) 戸主ニアラサレハ轉籍ヲ爲スコトヲ得ス隨テ戸主ニ限リ轉籍ノ届出ヲ爲スコトヲ得ルモノトス
- 戸主ハ未成年者又ハ禁治産者ナルトキト雖モ自ラ轉籍ノ届出ヲ爲スコトヲ得何トナレハ轉籍ノ届出ハ戸籍法第百九十五條第百九十六條ノ規定ニ從ヒ任意ニ之ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ就籍又ハ除籍ノ届出ノ如ク戸籍法上ノ義務トシテ之ヲ爲スコトヲ要スルモノニアラサレハナリ隨テ觀權ヲ行フ者又ハ後

校外生規則摘要

- 一 講義録ハ各部毎月二回發行シ滿一个年ヲ以テ卒業トス
- 一 一个年ヲ以テ完了セザルトキハ號外ヲ發ス
- 一 講義録ハ之ヲ三部ニ分ツ其發行定日左ノ如シ
 - 第一部 毎月 五日 廿五日
 - 第二部 毎月 十日 三十日
 - 第三部 毎月 十五日 三十日
- 一 月謝金ハ全部壹圓、各一部四十錢トス但シ入學金ヲ要セス
- 一 校外生ハ本校講談會、討論會ニ出席傍聴スルコト及ヒ本校ノ出版ニ係ル書籍雜誌ハ特別ノ廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得
- 一 校外生全部卒業證書ヲ有スル者ハ試験ノ上校内生三年級ニ編入セラルコトヲ得
- 一 校外生ハ講義録中ノ疑義ニ付キ質問スルコトヲ得問題ハ一間毎ニ別紙ニ認メ且一間毎ニ返信用郵券ヲ封入スルコトヲ要ス
- 一 三ヶ月以上月謝不納ノ者ハ退學者ト看做ス
- 一 月謝ハ東京飯田町郵便支局拂和佛法律學校會計係宛トスヘシ

明治二十二年十二月九日内務省許可

明治三十四年九月一日印刷

明治三十四年九月五日發行

編輯者 東京市四谷區四谷仲町三丁目三十八番地
小田 幹 治 郎

印刷者 東京市芝區四久保開倉町十一番地
金子 鐵 五 郎

印刷所 東京市芝區四久保開倉町十一番地
金子 活 版 所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

(電話番町百七十四番)